

ほつかいどう

私  
学  
振  
興

た  
ご  
よ  
り

No 29 2023年(令和5年)3月

# 目 次

● 挨拶	.....	1
● 私学振興に関する懇話会 全道大会	.....	2
● 私学振興全国大会	.....	12
● 道・道議会・国への要望活動	.....	14
● 定例総会・理事会・各部会の活動	.....	17
● 支部の声	.....	25
● 私立高等学校周年行事記念式典	.....	33
● 北海道社会貢献賞(私学教育功績者)	.....	34
● 北海道私立中学高等学校保護者会連合会	.....	35
● 北海道私立高等学校事務長会	.....	36
● 北海道私学団体連合会	.....	37
● 私学情報の発信	.....	37
● 道教委情報ボックス	.....	39
● 道学事課からのお知らせ	.....	40
● 私学関係団体からのお知らせ	.....	42
● 令和4年度・令和5年度の動き	.....	44



## 時代が必要とする私学教育を目指して

北海道私立中学高等学校協会  
会長 西岡憲廣

平素から私学教育の振興・発展に多大なご理解、ご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

昨年5月の定期総会において会長に就任しました。引き続き、会員の皆様と一丸となって私学の振興並びに当協会事業の推進に努めて参りますので、皆様方におかれましては、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨年も新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業を中止したほか、制限を設けて実施しなければならないイベント等がありました。3年ぶりに対面方式による定例総会が開催されるなど予定しておりました事業等が皆様のご協力のもと、概ね実施することができましたことに対しまして厚くお礼申し上げます。また、学校現場では子供たちのため、感染症対策を講じながら教育活動にご尽力されておりますことを心から感謝申し上げます。

我が国では、少子高齢化・人口減少の急速な進行、長引く新型コロナウイルス感染症への対応に加え、ロシアのウクライナ侵攻などの影響で原油価格の上昇等により物価が高騰し、私学を取り巻く環境は一段と厳しさを増しています。一方で Society5.0 の到来に活躍できる人材の育成に向けて、国が進める GIGA スクール構想に見られるように学校教育の変革期を迎えており、公教育を担う私立学校としても次代を担う子供たちが、その変化に対応できる資質や能力を身につけさせ、時代が必要とする人材を育成することが何よりも重要であると考えており、そのためには安定した学校経営のもと、私立学校ならではの特色を活かした教育の充実が必要あります。私立学校は、これからも建学の精神と独自の教育理念のもと、時代のニーズに対応した特色ある教育を実践し、将来を担う有為な人材を育成していくかなければなりません。

当協会では、「私学予算の充実と公私間の納付金負担格差の是正」「中卒者の減少に伴う公立高校の定員調整」「魅力ある学校づくりに向けた研修の充実」を重点項目として位置づけ、様々な事業や要望活動に取り組んでいます。

また、本年1月11日には、北海道私学団体連合会加盟10団体の役員、加盟校の代表者や保護者などの方々が一堂に会して「私学振興に関する懇話会全道大会」を開催し、多くの私学関係者の皆様と私学教育の充実・発展と経営の安定、保護者の負担軽減に取り組む決意を新たにしたところです。

当協会といたしましては、引き続き、私学の使命と私学教育の充実向上に向けて結束するとともに、公教育の将来に向かって着実に前進して参りますので、今後とも皆様のご理解、ご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

# 私学振興に関する懇話会 全道大会



新型コロナウイルス感染症の影響により昨年度、一昨年度は中止となった北海道私学団体連合会（西岡憲廣議長）主催の「令和4年度私学振興に関する懇話会全道大会」が、今年度は1月11日（水）札幌ガーデンパレスにおいて開催された。

この懇話会は、北海道私学団体連合会加盟10団体の役員をはじめ教職員や保護者などが一堂に会し、教育水準の充実向上と経営の安定に取り組む決意を新たにするとともに、私学教育に理解を示し、本道の私学振興に積極的に取り組んでいただいている国会議員、知事、道議会議員の皆様をご来賓としてお招きし、私学への公的助成や支援施策の充実に一層のご理解とご協力を求めるために開催している。コロナ禍により参加人数を制限したため、全道から188名の参加となった。

当日は、堀井学衆議院議員、和田義明内閣府副大臣・衆議院議員、高木宏壽衆議院議員、東国幹衆議院議員、橋本聖子参議院議員、高橋はるみ参議院議員、岩本剛人参議院議員、船橋利実参議院議員、鈴木直道北海道知事、小畠保則北海道議会議長、中司哲雄北海道議会教育振興議員連盟会長から、私学の支援に対する力強い応援のご挨拶等をいただくとともに、北海道議会教育振興議員連盟役員の皆様に応援に駆けつけていただいた。

主催者及び来賓のご挨拶は次のとおり。

## 【主催者代表 西岡憲廣議長】

明けましておめでとうございます。皆様には、お気持ちも新たに新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

また、本日は、年初めの何かとお忙しい中、全道各地から多くの皆様にご参集いただきました。

3年ぶりに、このような形で全道大会を開催することができますことを大変喜ばしく思っております。

本日の懇話会には、ご来賓として国会議員の皆様、鈴木北海道知事、また、多くの北海道議会議員の皆様にもご出席をいただいております。本当にありがとうございます。

ご来賓の皆様には、日頃から私学に対する公的助成や教育費負担の公私間格差の縮小・是正など、多くの私学支援対策に取り組んでいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

今、私ども急速に進む少子化や人口減少に加え、長引く新型コロナウイルス感染症の影響、更には原油価格の上昇や円高の進行などによる物価高騰により、これまで経験したことがない困難な課題に立ち向かいながら公教育の一翼を担う私学人として、日本の将来を担う子どもたちをしっかりと考え方育てていくという使命を担っております。



# 私学振興に関する懇話会 全道大会

ご来賓の皆様におかれましては、保護者への助成制度の拡充や経常費助成制度等の充実、耐震化等の施設や設備への支援の拡充などを通じて、我々私学関係者が安定した経営基盤の下、特色のある教育を行えるよう、更なるお力添えをお願いする次第であります。

今年の春には統一地方選挙も控えております。常日頃から私ども私学教育にご理解をいただいている知事並びに北海道議会議員の皆様には是が非でも当選していただき、更なるご活躍をしていただきたいと願っております。

本日、ご参集いただきました関係者の皆様には、私学教育の充実向上に向けて、一層の結束をお願いいたしますとともに、新たな時代に立ち向かう強い気概をもって未来に進んでいただきたいと思います。

終わりになりますが、本年が皆様にとりまして、実りの多い一年となりますことを心よりご祈念申し上げ、開会に当つての挨拶いたします。本日は、誠にありがとうございます。

## 【堀井学 衆議院議員】

改めまして新年明けましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願いを申し上げます。

本来ですと橋本先生や鈴木知事がスタートでご挨拶すると思っておりましたが、私も4期目となりまして、今、自由民主党の党本部の中で文部科学部会長代理を務めているところから、白羽の矢が立ったのだと思っております。

部会長を務めているのが4区の中村裕之衆議院議員であります。きょうは公務のため出席が叶わなかったということで、自民党の部会長代理ということで最初にご挨拶させていただくことを橋本先生にもお許しいただきたいと思います。

まずもって私学振興に関わる全ての皆様方に、北海道の子どもたちに素晴らしい教育を



継続して、そして、多くの素晴らしい人材を輩出していくお手伝いをすることに心から敬意と感謝を申し上げたいと思います。

昨年末、国会では令和4年の補正予算の審議が行われました。そこで文部科学省に関わる予算につきましては、約1兆4,000億円程度の予算を審議させていただきました。その中で、最も多く時間が費やされた案件というのは、約3,002億円程度の基金を積み増しして、現在の雇用が求められている学部の増強を図っていくかなければならないということで、高度の人材の育成、特にこれからデジタルトランスフォーメーション更にはグリーントランフォーメーションとこれに関わる人材の輩出が求められているわけあります。ここに基金を積み増しして、大学や高等学校の学部を再編していただき、世に求められる人材の育成を図ることで、自民党の部会の中でそういう取りまとめの結果、予算を成立させていただきました。

また、これに付加えまして耐震化や私学に関わる高等学校はじめ私学の認定子ども園の予算が拡充されたところでもあります。

私学の学校につきましては、約90億円。幼稚園につきましては、同じく約90億円の成立を図っていくことができました。

引き続き、令和5年度は、新年度予算は戦後最大の規模となる114兆3,800億円という非常に大規模な予算となります。文部科学省に関わる予算も相当程度増額となっておりますから、早期に成立を図って、今、コロナやそして長引く原油高騰、電気代高騰、こうした対応・対策に務められる予算の成立を目指して頑張っていきたいと考えております。

先ほど、西岡会長からもお話をされましたとおり、私学の関わる皆様方の取り巻く環境というのは非常に厳しさを増している中でありますけれども、岸田総理、異次元の少子化対策、子どもを産み育てやすい環境づくりというのは、教育に関わる予算を投していくということの意気込みの表れだと思っております。

令和5年度の予算をしっかりと成立を図って、早期に皆様方にこの少子化対策を含めた

# 私学振興に関する懇話会 全道大会

子どもを産み育てやすい環境づくり、整備に全力を上げる年にしたいと考えております。

私学振興に関わる全ての皆様方に、今後とも北海道の子どもたちの未来のために、引き続きご尽力を賜りますことを心からお願ひ申し上げて、冒頭のご挨拶に代えさせていただきたいと思います。本日は誠におめでとうございます。

## 【和田義明 内閣府副大臣・衆議院議員】

皆様、新年明けましておめでとうございます。

北海道第5選挙区の和田義明でございます。西岡議長をはじめ北海道私学団体連合会の皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えになったことと心よりお喜びを申し上げます。また、皆様方には日頃より大変お世話になっておりますことを心から御礼申し上げます。教育を取り巻く環境、大変厳しい状況が続いております。

人口の減少そしてGX、DXなど世の中の変革のスピードの速さ、そしてまた、米中のデカップリングやロシアとウクライナの戦争など、国際社会の分断、大きく目まぐるしく世界が変わっている中、皆様方におかれましては、日々日本の未来を背負っていく人材に心血を注いで育成し、そしてお守りいただいていることに心から敬意を表したいと思います。誠にありがとうございます。

先ほど、西岡議長からもお話をございました。公私間格差のは正そして私学助成の抜本強化が待ったなしの状況であり、日本はOEC諸国の中でも教育予算が少ないということで大変恥ずかしい状況にございます。

岸田総理も子ども関係の予算を抜本的に強化すると申しております。私も内閣府副大臣として、今年の4月1日には子ども家庭庁の設立に向けて今、作業を進めているところであります。



教育そのものは子ども家庭庁とは離れておりますけれども、しかし、その周辺のこと全てをしっかりと頑張り、そして子どもたち、若者たちが、そして子どもを支えるすべての方々が、しっかりと前に進めるように皆様方とともにやらせていただきたいと思っております。

今年は兎年でございますけれども、兎年の歴史を振り返りますと、1951年日本はサンフランシスコ講和条約を締結いたしました。敗戦を経て、そして厳しい年月を経て、そして士気を取り戻し、国際社会に復帰した年でございます。

また、同じく兎年の1975年、これは20年間続いたベトナム戦争が終結した年でもございました。

今、ユーラシア大陸の反対側では、ウクライナの方々がロシアの侵略により、この寒い中大変厳しい状況に立たされております。胸が張り裂ける思いでありますけれども、どうか、今年はそういった戦争が、そしてコロナなどのような疫病が、そしてこういったことに由来します様々な困難が、退散しますように皆様方とともに心からお祈りしたいと思っております。

終わりになりますけれど、私学振興に関わる全ての皆様のご健勝とご多幸をそして益々のご活躍、そして何よりも日本の未来を背負っていく子どもたちの健やかな育成を心から念願いたしまして、私の年頭のご挨拶に代えさせていただきます。本日はご盛会誠におめでとうございます。

## 【高木宏壽 衆議院議員】

皆様、新年明けましておめでとうございます。ご紹介いただきました衆議院議員の高木宏壽でございます。

私学の各教育機関の先生方におかれましては、日頃から道内の子どもたち、青少年の教育に力を尽くしていただけること心から敬意と感謝を申し上げたいと思います。

この私学の振興に関する懇話会、私も一時お休みをいただいておりましたので、コロナ

# 私学振興に関する懇話会 全道大会

禍もありまして本当にこの場でご挨拶させていただくのは、6、7年ぶりになると思いますけども、こうして皆さんのお顔を拝見しながらご挨拶できる機会をいただいて本当にありがとうございます。

今、日本の円は安くなっています。ドル高、円安というだけでなく、スタートアップもなかなか育たない、低賃金、そうしたことにも含めて日本は安くなっています。この負のスパイラルを逆戻すためには、私は1つの大きな鍵は教育であると考えています。骨太の方針でも政府では、人への投資、大きな柱の1つに据えております。

例えは、その中のDX、今、小中高一貫してプログラミング、データサイエンスを勉強しております。

2020年から小学校でプログラムテキストが必修化されました。2021年度からは、中学校で技術科、更に本年度高校で情報1ということで、こうした学びが行われております。

本年度、学習指導要領が改定されまして、より専門的な内容、コンピュータプログラミングや情報通信あるいはデータの活用と、そういったより専門的な内容を教える側が、必ずしもこうした専門的な内容を学んでいなという状況がございます。こうした情報教員のレスキル、これが1つの大きな課題になっております。

また、こうして小中高一貫して、コンピュータプログラミング等を学んで、大学入試でも必須化されて育った、いわゆるDX世代の若年層が今後、日本の大手企業に就職するのかといった課題も考えられます。

こうしたところをしっかりと政策として手当をしていかなければならないと考えております。

昨年度はロシアのウクライナ侵略あるいは輸入資源価格の高騰、物価高、様々な難題、



今、日本を押し寄せております。

その難題を単に解決するだけではなく、成長に繋げていく、そうしていかなければならない、この1年にしなければならないと思っております。

今年1年、先生方におかれましてはご健勝にてご活躍されることを心からご祈念申し上げてひと言ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## 【東国幹 衆議院議員】

皆さん、改めまして明けましておめでとうございます。

先ほど堀井学部会長代理から大まかな予算のご説明がございましたが、それをどのようにしてこの北海道の管理運営対策費補助金等々に反映できるかどうかというものが、これから我々の勝負どころだと思っております。



北海道、ご承知のとおり広域分散型の国土を形成しております。私の選挙区は南北300キロ。しかし、大体5万人以下の地方都市においては、公立高校などは職業学科、いわゆる工業高校とか農業高校とかそういうところが適正配置計画の中で統廃合を余儀なくされて、殆ど5万人以下のこの都市には、それらの職業学科の公立高校というのは、最早、学科は存在しているかもしれないが、単科というのはなくなってしまいました。

しかし、今、道の経済分布も、経産省もそうですが、専門性を特化させるような、この青少年の育成というものをどのようにして社会に送り出しか、あくせく頑張っているところ。しかし、そういう北海道の広域分散化という流れの中で、統廃合を余儀なくされている。そういう中において、各種の専修学校の皆様方の存在や、そして特化された建学精神によって、いろんな面で救われているのはご承知のとおりだと思っております。

我々は、今、和田先生から世界規模のお話

# 私学振興に関する懇話会 全道大会

がございましたけれども、どちらかというと島国の日本は、海に囲まれていて労働力の自由化というものは、殆どまだなされではおりません。いわば国境で守られている。

それでもし、これから時代を予見した中でディスクローズされるようなことがあれば、我が国の青少年の立ち位置は、外国人の人材とやはり競争を余儀なくされてしまう。そういった中においての私学の振興と、そしてその教育の中身の充実、これを我々は図つていかなければならぬ1つの大きな大きな課題だと考えているところでございます。

そういった中において、予算の時期もそうですが、常日頃から多くの政策的なご提言をいただいているということに、本当に感謝を申し上げたいと思いますし、我々は受け賜った要望をいくばくかでも実現力を發揮するためにしっかりと汗を流していくことを決意とさせていただきたいと思っております。

ぜひ、この北海道の独自性、それぞれの建学精神に根差した独自性というものを發揮させ、ぜひとも私学振興、そして青少年の皆様方のご活躍をご祈念申し上げまして、簡単でございますけれども、ご挨拶とさせていただきたいと思います。今年1年、またどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 【橋本聖子 参議院議員】

改めまして、新年明けましておめでとうございます。ご紹介いただきました橋本聖子でございます。

西岡議長はじめ私学団体の皆様方には日頃から大変温かいご支援、ご指導をいただいておりますこと、この場をお借りいたしまして改めて御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

堀井部会長代理から、今、党で行われている諸問題に対してお話をございました。そして、先生方からそれぞれ専門的なお話をさせ



ていただきました。

私は今、ちょっと違った視点で研究していることをお話をさせていただきたいと思います。

ここ10年前から脳科学を研究しております。それが何に役立てようかということは、スポーツということになります。人間というのは小さいころは、右脳も左脳も前頭葉も全ての脳に平均的な刺激を与えて、日々活動をしているということですけれども、これがだんだん成長してきますと樂をしようとしまして、左脳ばかり刺激を与えて、あまり右脳を使うことを普段の生活の中で忘れてしまっているということが分かりました。

その結果、何が起こるかといいますと、左脳ばかりを刺激して運動をしていますと疲労物質がものすごく出てきます。でも、運動をしている最中に右脳に刺激を与えることが上手になってくると、実は血液中の尿酸値が軽減されていくということが分かりまして、これはトップアスリートへのコーチングですけれども、右脳をしっかりと活用することができるトレーニングをして、今の日本の選手の活躍があります。

幼児教育の素晴らしさというのは、そういう視点がしっかりとされている人間をつくり上げるということから始まっているということでありすけれども、まさに研究を重ねていきますと、人間の環境とそして学ぶ力を養うということが、如何にその人を育てていく原点かということが、今、脳から分かってきたわけであります。

私学というのは、まさに柔軟な指導、そしてあらゆる方面から人を育てていくという能力の高さというものが、今こそこの日本に大変必要な重要なことであると私は再認識をしております。

国家100年の計、教育こそが日本の礎であるという信念をしっかりとご要望に応えながら、これから私学振興について全力を尽くして頑張っていきますことを心からお誓い申し上げまして、新年のご挨拶に代えさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。

# 私学振興に関する懇話会 全道大会

## 【高橋はるみ 参議院議員】

皆様、明けましておめでとうございます。ただ今、ご紹介賜りました参議院議員、高橋はるみでございます。

西岡先生はじめ全道からお集りの各私学の先生方におかれましては、地域の宝である北海道の子どもたちの教育に建学の精神、そして、独自の教育理念に基づき、しっかりと教育を育てていただいておりますこと、道民の1人として心から感謝を申し上げる次第でございます。

私自身、去年の8月まで約1年間文科省の大蔵政務官を拝命いたしまして、仕事をさせていただきました。初めての経験でございましたが、まさに人づくりは国づくりの基である。このことを徹底的に文部官僚の方々からお教えをいただきながら、仕事をやらせていただきたところでございまして、そういった経験を踏まえて、道内の各私学の先生方のご努力、ご苦労ということを改めて認識を深めさせていただいたところでございます。

文部科学行政、いろんな幅広いことをやらせていただいておりますが、私のおりました1年間、振り返りますと1つのトピックスは、やはり、私学のガバナンスの改革をしようという、そういう動きが党主導でございまして、それも大学そして高校、中学校、小学校、幼稚園、各種学校とそれぞれの状況に合うような形で、如何に極め細やかな形で、このガバナンスの改革を行うか、こういったことを文部官僚の方々としっかりと議論をしながら進めさせていただいた、これが私にとって1番大きな経験だったかなと振り返るところでございます。

また、限られた期間ではございましたが、橋本先生お帰りになられましたけれども、東京オリ・パラの直後でもございましたので、特に障害者の方々に対するスポーツ、これを全国的に如何に高めていくのか、振興してい



くのか、このことについて、この分野のスポーツ府の職員の人たちとプロジェクトチームを組みまして、議論に議論を重ねて、「はるみレポート」という形でまとめさせていただいた、これも得難い経験だったなと振り返るところでございます。

やはり、教育を進めていく上で私学の皆様方はまさに独自の教育理念のもとに進めておられる。そのことの重要さということ、特に今、少子化が言われている中で、私は大変重要なテーマになってきているとこのように思う次第であります。

道府、知事さん、それから道議会の先生方もご出席でございます。我々バッヂを付けている人間は、それぞれの立場で、今日お集りの道内の教育に携わっておられる先生方の環境であるとか、あるいは子どもを教育する環境を如何に高めていくかということに、日々これからも努力していくことをお誓い申し上げ、ご挨拶と御礼に代えさせていただきます。本日のご盛会誠におめでとうございます。

## 【岩本剛人 参議院議員】

改めまして、明けましておめでとうございます。ご紹介を賜りました参議院議員の岩本剛人でございます。

今、高橋はるみさんからお話をありがとうございましたが、私も8月16日まで防衛大臣政務官を拝命しておりまして、全く昨年まで北海道に帰ってくることができませんでした、今日こういう機会をいただいたことに心から感謝を申し上げたいと思います。

また、日頃から、先ほど堀井先生、和田先生からお話をありがとうございましたが、北海道の人材育成、教育のために本当に先生方にご尽力を賜っておりますことを心から敬意を申し上げたいと思います。

先ほど和田先生からお話をありがとうございましたが、昨年の2月24日ロシアの一方的なウクライ



# 私学振興に関する懇話会 全道大会

ナへの侵攻によりまして、ご承知のとおり世界が変わって参りました。もちろん防衛につきましても、今、防衛戦略を作っております。また経済安全保障、また食糧安全保障、世界が変わることによって、この日本の国をどう考えていかなければならないのか、改めて考えさせられた1年だと思います。

そうした中で最も大切なことは、先ほどからお話があった人材だと思います。全てを支えるためには、人材が必要です。ただ、ご承知のとおりこの北海道過疎地域が進んでおります。

また、私も実は小さな幼稚園を経営しておりますけれども、様々な処遇改善等を対応させていただいておりますけれども、実際その人材を育てていくためには先生方の経営や、またそれぞれの学校が安定的に運営していかなければ、人材を育てていくことはできないと自分は思っております。

そうした中では、今日鈴木直道知事がいらっしゃっておりますけれども、本当にこれから北海道の若い子どもたちや新しい素晴らしい人材育成をどう真剣に考えていかなければならぬのか、改めて今年1年、皆さんと一緒に考えていかなければならぬのではないかと思っているところであります。

そうした中でお話があつたとおり我々政治の役割、また、皆様方、先生方が日頃現場で感じられているいろいろな様々な課題について、しっかりと我々は受け止めて皆さんと一緒にこれから北海道の私学振興に全力で努めていきたいと思っているところであります。

本当にこういう貴重な機会を賜りましたことに改めて重ねて感謝を申し上げまして、我々しっかり頑張って参りますので、今年1年どうぞよろしくお願ひ申します。ありがとうございます。

## 【船橋利実 参議院議員】

皆さん、明けましておめでとうございます。ご紹介いただきました船橋利実でございます。

北海道私学団体連合会西岡議長をはじめ加盟の皆様方には、令和5年の輝かしい新春

ご健勝の中でお迎えられたことを心からお喜びを申し上げる次第であります。

また、昨年の参議院選挙におきましては、自民党党内2議席獲得に向けて、皆様方に格別なるお力添えを賜りましたことに、高い席からでございますけれども、改めて厚く御礼を申し上げる次第でございます。誠にありがとうございました。

各先生方から縷々お話をございましたけれども、我々の今年の目標の1つは、マスクを外した日常を取り戻すということであります。ご記憶にない方が殆どだと思いますが、過去にインフレンザが流行した時に、この時も2類から5類に引き下げをいたしました。実は、引き下げをしますといつて告知をしてから、実際に引き下げをするまでには、当時8カ月かかったのです。これから我々は見直しをかけていって8カ月もかかってしまうと、また1年飛んでしまいます。

私自身、このコロナ過にあって自分の孫の入学式も入園式も運動会も学芸会も、何もかも見に行く機会はありませんでした。

まさに学校現場の先生方におかれでは、子どもたち、教職員の皆様方の安心・安全のため大変ご努力をいたしてきた3年だったと思います。ですから1日も早く日常を取り戻していく、それが今、我々政治に課せられている1番の課題だと思っております。同時にこの3年間の中で学校現場、教育現場で皆様方にいろいろなことをお願いして参りました。

それが、果たして感染症対策として考えた時には、学校現場とか教育現場では適切であったのかどうか、このことについては検証していかなければなりません。そういう意味では皆様方の様々な経験を通じてのご意見、ご要望というものをぜひ、我々にお寄せいただいて、次なる脅威に備えて、どうすべきかということを共につくり上げていく1年にして参りたいと思っております。

私学振興の大切さというものは、私は申す



# 私学振興に関する懇話会 全道大会

までもない事であります。今年1年、各地域の中で今日ご出席の皆様方がより良き教育のために、また、明るく元気な学びの機会を求めるすべての人たちのためにご活躍いただく1年でありますことを心からご祈念申し上げまして新年のご挨拶といたします。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

## 【鈴木直道 北海道知事】

ご紹介いただきました北海道知事の鈴木直道でございます。皆さん、明けましておめでとうございます。

私学振興に関する懇話会の全道大会、このように多くの皆様が出席をされて直接顔を合わせて開催されるということを心からお喜びを申し上げます。

西岡議長は、私、夕張市長の時から法政大学の先輩ということでもございまして、大変お世話になっておりますが、本日ご出席いただいたおります皆様には、北海道の教育を充実させていくために多大なるご理解とご協力をいただいておりますことに、この場を借りて知事として厚く御礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと新型コロナ、この感染の拡大が続くという状況がございました。

今、足下の感染状況につきましては、人口10万人当たりの感染者数でいうと、実は北海道は47都道府県の中で、今、最も低い状況になっておりまして、11月の時に全国で1番感染が高かったときに、北海道の感染が広がって、その後、東京が広がってということでしたけれども、全国一感染が多い時は北海道は大変だと言われますが、日本一低くなっている時は誰も取り上げない。これも本当に皆さんのお力添えでありますし、病床についても何とか40%を切るという状況になつておりますので、また、足下でインフルも広がってきておりますので、ここにも注意をしながら学校現場、私学の現場、ここを守っていくということを皆さんとしっかりと取り組ん



でいきたいと思っております。

昨年は、今、高病原性鳥インフルエンザについても、全国でも過去最多という状況になっています。北海道でも昨シーズンその最多という状況を記録しましたけども、あの鳥インフルエンザが発生しますと防疫措置ということで鳥の殺処分などをやりますが、白老で52万羽殺処分しました。自衛隊の方に大変ご協力いただいたのですが、その52万羽以外の部分については、基本的には道の職員が普通に日常的仕事をしている普通の職員が防疫措置ということで鳥を殺処分していく、24時間3交代でそういう作業をしていくということですが、これは、今、日本で過去最多になっていますので、渡り鳥シーズンが終わるまでこういった警戒も続けていかなければなりません。

人口減少や少子高齢化、北海道においては全国に先駆けて進んでいるという状況の中で、このデジタルまたは脱炭素という転換の中で、我々は仕事を進めていかなければなりません。

持続可能な社会を維持していく上で、人材をとにかく輩出していく、規制していく、このことが最重要の課題であります。

このような中で将来を担う子どもたちの可能性を引き出していく、この教育に求められるその役割は、より一層高いものがあるわけであります。それぞれの建学の精神に基づいて特色ある教育を実践していただいている私立学校に対する大きな期待が今、この時代の岐路にある今だからこそより求められていると考えております。

道としても教育現場でご尽力いただいている皆さんの声をしっかりと受け止め、そして児童生徒の皆さんのが将来希望をもって可能性を最大限發揮できる社会、これを実現することに向けての各般の施策を本年もしっかりと取組を進めて参りたいと思います。

結びに、私学、更なる発展そして皆様のご健勝、ご多幸そして本年が実り多い年となること、希望に満ちた年となることを皆さんとともに誓い申し上げて新年のご挨拶に代え

# 私学振興に関する懇話会 全道大会

させていただきたいと思います。皆様、本年もよろしくお願ひ申しあげます。

## 【小畠保則 北海道議会議長（メッセージ）】

私学振興に関する懇話会全道大会が3年ぶりに開催されますことをお喜び申し上げます。

日頃より私学教育を通じて、本道教育の振興、発展に多大なるご尽力をいただいておりますことに心より感謝と敬意を表します。

本日の大会が実りの多いことをご期待申し上げるとともに、ご参集の皆様の健勝とご多幸をお祈りいたします。

## 【中司哲雄 教育議連会長】

皆様、改めてまして新年明けましておめでとうございます。

ただ今、ご紹介をいたしました北海道議会教育振興議員連盟の会長を務めております中司と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。



また併せて、この懇話会全道大会3年ぶりに、全道からこうしてお集りの中で盛大に開催されますことを改めてお祝いをお申し上げます。おめでとうございます。

先ほどから教育議論が続いて参りました。私どもも北海道議会の中で、きょうは吉川文教委員長がまだ委員会をやっているということで、非常に議員の中での教育に関する関心というのが高いということでもまだ議論が続いているものですから、委員長が抜けられないということで、きょうはまだ到着しておりませんけれども、私どもも日頃から私学振興はもちろん、管理運営費の問題、増額の問題、耐震化の推進、そしてそれぞれの教育費の無償化の中での諸問題と、更に皆様方の処遇の問題に関する意見書ですとか、そうしたものについて取り組ましていただいております。

知事にも年に1度、私学の振興に関する要望書を出しながら、何とか増額してほしいという要望を行っておりますけども、なかなか

皆様方の思うようにはいかないということあります。道財政の問題もありますので、簡単ではないですけども先ほどから各先生方がおっしゃっているように、教育というのは非常に大事な問題だというふうに思っています。

私ども教育議員連盟でも北海道の子どもの学力の問題、あるいは、地方においては過疎化が進んで、幼・小・中・高、それぞれの段階で教育を受ける機会が段々と少なくなっていく、町で1つしか維持できなくなってきた。その中の子どもたちの教育をどうするのかという問題についても一緒に取り組ませていただいております。

そうしたことが全体としての北海道の今後の人材を育てるということにつながると、私どもは信じて頑張っているところがあります。それぞれが各地域で様々な課題を拾ってきて、そのことを議論をするのは北海道議会でありますので、これからもしっかりと取り組んでいかなければなりません。

そうした中でも私学については特に幼稚園あるいは、高校、大学、専門学校という分野では民の占める割合が非常に大きいという中で、先生方はそれぞれ大変な現場で苦労されている。

特にコロナの中では、如何にクラスターを起こさないかということに大変な苦労をされていると伺っております。私の地元では私学は幼稚園しかないのですが、それでも本当に子どもたちをこの段階からどうやって育てていくかということに、全力を注いでいる方が非常に多いということで、それが全道に波及していくんだと思っております。そうしたことを行うやつて支援するかというものが私たちの地方議会の役目でもあろうかと思っています。

これからも皆様方と一緒に、この北海道の子どもたちをしっかり育てていく、如何に自分たちの後を引き継いでくれる子どもたちを育てるかというのは、大事であるがゆえに難しいかということも実感しております。

そうした意味で、今後も皆様方とともにしっかりと努力をして、北海道の教育そしてまた、

# 私学振興に関する懇話会 全道大会

皆様方が担っている私学の振興のために働いて参りますので、どうかよろしくお願ひいたします。私たちのご挨拶にさせていただきます。今日は本当におめでとうございます。

## [大会決議]

大会の最後には、私学経営の健全化のための補助金等の大幅な拡充、私立学校の就学支援金制度等の拡充を図ること柱とする決議案を、山崎省一（やまざき せいいち）北海道私立中学高等学校協会副会長が読み上げ、全会一致で採択され、決議はその場で堀井学衆議院議員に手渡された。



## 決 議

本道の私立の幼稚園・認定こども園、小・中・高等学校、専修学校・各種学校、短期大学、大学は、それぞれ建学の精神と独自の教育理念のもと、常に時代の進展と社会の要請に応じて特色ある教育を展開し、将来を担う人材を育成するとともに北海道の発展に多大な貢献をしてまいりました。

現在、急速に進む人口減少・少子化の影響、また、長引く新型コロナウィルス感染症の影響で、教育現場は今もなお厳しい現実と向かい合っており、加えて原油価格の上昇や円安の進行などによる物価高騰により、私学を取り巻く環境はますます厳しさを増しており、我が国が持続可能な社会を維持していくためには、新しい時代を担う子供たちへの質の高い教育の提供が何よりも大切であり、そのためには、安定した経営基盤のもと私学ならではの特色を生かした教育の充実が大変重要となっております。

本日、私学関係者並びに保護者の総意において、本道の教育の充実・発展に一層努力することをお誓い申し上げますとともに、公教育における公私間のさまざまな格差是正を目指し、その速やかな実現を期して次の事項を決議します。

### 記

- 一、私学経営の健全化、保護者負担の軽減及び教育諸条件や施設設備の整備のため、所要の補助金等の大幅な拡充を図ること
- 一、公私間における保護者の教育費負担の格差是正のため、私立学校の就学支援金制度等の拡充を図ること
- 一、学校施設等の耐震化の早期完了と既存の施設整備の更新、長寿命化のため、所要の補助金等の大幅な拡充を図ること
- 一、私立学校教職員退職金資金給付事業等の補助金の充実を図ること
- 一、新型コロナウィルス感染症による授業等への影響に対する支援措置、コロナ禍における電気料金を含む物価高騰に対する支援の充実を図ること

令和5年1月11日

私学振興に関する懇話会全道大会

# 私学振興全国大会



日本私立中学高等学校連合会（中高連）、日本私立小学校連合会及び日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会（日私学保連）の主催による「令和4年度（2022年度）私学振興全国大会」が、11月9日にアルカディア市ヶ谷（私学会館）で開催された。

全国の都道府県から389名の私立学校関係者や保護者が参加し、また、大会には日頃から私学の振興・発展にご理解いただいている自由民主党国會議員50名（代理を含む。）の皆様にご出席いただき、私立学校に対する補助金の大幅な拡充やICT環境の整備、施設の耐震化等に対する補助金の拡充、私立学校保護者の教育費負担の軽減などを要請した。

はじめに、主催者を代表して吉田晋・中高連会長と門傳英慈・日私学保連会長が挨拶に立った。吉田会長からは、私立学校が常に新しい時代に対応した特色ある教育活動を日々実践しているが、その経費が全額公費で賄われている国公立の学校と異なり、私立学校は経常費助成と学納金によって支えられていることから、経常費助成費等補助金をはじめとする公的支援の拡充や保護者に対する授業料等の軽減支援の拡充が重要であることを訴えるとともに、自民党の先生方のご尽力により成立した「私立学校振興助成法」は今日の私学振興に大きく寄与している。私立中学・高等学校は生徒・保護者の期待に応えられるよう私学助成と保護者に負担いただく学納金によって、子供たちの教育をより一層充実させることを約束する旨の挨拶があった。

## 決議

私立中学高等学校は、建学の精神の下、常に時代の進展と社会の要請に対応した特色ある質の高い教育を展開し、我が国の公教育の発展に貢献してきました。

現在、我が国では、長引くコロナ禍に加え国際情勢の緊迫化により、急激に円安が進行するなど社会経済情勢が混乱する中で、少子高齢化が更に深刻化するという厳しい状況に直面しています。

このような先の見えない時代であればなおのこと、将来を担う子供たちへの教育がますます重要であり、私立中学高等学校は、子供たちが時代に相応しい資質・能力を身に付けられるよう、新しい教育への移行、ICT環境の整備など、教育内容の向上や教育環境の整備について自助努力を続けています。

しかしながら、その経費が全額公費で賄われる国公立学校に対し、経常費助成と学納金によって支えられている私立学校にとって、新たな経費の負担は大きく、自助努力の範囲を超えるものとなっています。就学支援金についても拡充されたとはいえ、私立高等学校の「施設整備費等」は支援の対象外とされているなど、「教育の実質無償化」は未だ達成されておらず、今こそ保護者の教育費負担軽減に向けて、更なる支援の拡充が必要です。

つきましては、本日ここに、私立中学高等学校関係者並びに保護者の総意において、公教育における公私間の様々な格差の是正を目指し、その速やかな実現を期して、下記の事項について決議いたします。

## 記

- 一、私立中学高等学校の教育全般の充実発展のため、経常費助成費補助金の大幅な拡充を図ること
- 一、私立中学高等学校におけるICT環境の整備、施設の耐震化、省エネ・脱炭素化の早期実現のため、所要の補助金の大幅な拡充を図ること
- 一、私立中学高等学校保護者の教育費負担軽減と公私間格差の是正を図るため、就学支援金制度や授業料減免支援の拡充を図ること

令和4年11月9日

令和4年度私学振興全国大会

# 私学振興全国大会

続いて門傳日私学保連会長からは、新型コロナウィルス感染症の流行により、学校教育のデジタル化が進められているが、基盤となる生徒1人1台端末の整備について、私立学校は補助率の壁があり保護者の負担が増えている。公私間の格差、保護者の教育費負担格差のは正が図られつつあるが、一方で都道府県間や年収による支援額の格差、増加する家計急変世帯への対応など、更なる負担軽減に向けて公的支援の拡充が求められている。社会が大きな転換期を迎えるとしている今、私立学校においても教育の更なる充実が図られるよう補助金等の充実強化を訴えた。

また、中高連の近藤彰郎・副会長からは、経常費等補助金をしっかりと守っていただくこと、創意工夫ができる自由闊達な環境を確保していくことの2点について要請した。

さらに、保護者を代表して高知県私立中学校高等学校保護者会連合会の田岡真澄美さんが、ウイズコロナ時代の私立学校と保護者、子供たちのため、教育のデジタル化の基盤となり1人1台のパソコンの配備や空調・換気設備の整備をはじめとする教育環境のより一層の充実と、保護者の経済的負担の更なる軽減のための支援を盛り込んだ「保護者の願い」を読み上げ、元文部科学大臣の塩谷立・衆議院議員に手渡された。

最後に、日私学保連の中園裕介・副会長が、「私立学校教育の一層の充実のため、経常費助成費補助金の大幅な拡充」「私立学校におけるICT環境の整備、施設の耐震化の実現、施設設備の更新のため、所要の補助金の大幅な拡充」「私立学校保護者の教育費負担軽減とその公私間格差のは正を図るため、就学支援金制度や授業料減免支援の拡充」を要望の柱とする決議案を読み上げ、満場一致で採択され、永岡桂子・文部科学大臣に手渡された。

## 来賓議員から力強いご挨拶

最初に、永岡桂子・文部科学大臣からご挨拶があり、大臣からは、各私立学校では様々な創意工夫を凝らした教育実践が展開されている。岸田内閣では「人への投資」を第一の政策に掲げており、子供や子育て世代の視点に立った子供政策を強力に推進し、子供に関する取組や政策を我が国社会の真ん中に据えていくことに政権を挙げて進めていく。文部科学省としては、私立中高の運営に必要な経常経費の確保はもとより、耐震化等の防災機能強化、感染症対策による学習機会や私立高校等のICT環境整備等について、切れ目のない支援を行うべく必要な

## 保護者の願い

国会議員の先生方には、平素より私学教育の振興、発展にお力添えを賜り、加えて本日は大変ご多忙の中ご臨席いただきまして誠にありがとうございます。

少子高齢化が進行する我が国では、新たな時代に対応できる人材育成のため、様々な教育改革が進められています。

その一方で、学校、保護者、子供たちは、長引く新型コロナウィルス感染症への対応を余儀なくされています。更には、経済の低迷や国際情勢の緊迫化など子供たちの未来に影響を及ぼしそうな状況も垣間見える中にあって、子供たちはコロナ前のように学校生活を送ることが出来ていません。

しかし、それでもなお子供たちは、自分たちの置かれている困難な状況と向き合い、克服しながら勉学や部活動など今できることに精一杯励んでいます。このような状況にあっても子供たちが主体的に深い学びを継続し、自らの進路をたくましく切り拓き、将来社会の担い手として活躍、貢献できるように成長することが私たち保護者の何よりの願いです。

私たちは、私立学校が独自に掲げる建学の精神に基づいた特色ある教育に賛同し、私立学校に進学する道を選びました。決して経済的にゆとりがある家庭ばかりではありません。これからも家庭の経済状況によって子供たちの自由な学校選択が妨げられることなく、自らが望む最適な教育を受け続けられますことを切に願っています。

本日ご臨席の国会議員の先生方には、令和5年度私学関係政府予算の編成にあたり、ウイズコロナ時代の私立学校と保護者、子供たちのため、教育のデジタル化の基盤となる1人1台のパソコンの配備や空調・換気設備の整備をはじめとする教育環境のより一層の充実と、保護者の経済的負担の更なる軽減のため、格別のご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

令和4年11月9日

私学振興全国大会保護者代表

高知県私立中学高等学校保護者会連合会 田岡 真澄美

# 私学振興全国大会

予算を要求しているところであり、今後とも、私立学校の発展のために精一杯取り組んでいくと発言があった。

続いて自民党政務調査会長の萩生田光一・衆議院議員からは、我が国の未来を支える子供たちの教育環境をさらに良いものにしていかなくてはならないが、我が国の教育費をO E C Dデータで見ると、公財政教育支出の対G D P比は、O E C D諸国の中位4.4%と比べても3.0%であり、参加国中最下位。変化の激しい時代だからこそ、子供たち一人ひとり未来を生き抜く力を身につけることができるよう、最大限の支援を行っていかなければならないなどのご挨拶があった。

また、自民党総務会長の遠藤利明・衆議院議員のご挨拶では、日本という国で本当に教育が大事であるならば、財源を新たに作って行くことが必要である。人口減少の中で、私立学校は日本の教育の良さをアジアの人たちを取り込んで、日本の力を世界に発信していくこと、そして、日本の教育の良さをアジアの子供たちにしっかりと認識してもらい、一緒になって繁栄を作っていくことが大事ではないか。いま憲法改正の議論をしているが、私学助成がどれだけ重要であるか、そして私学は公教育であることについて、憲法でしっかり謳うことが大事ではないかとの発言があった。

さらに、元文部科学大臣の下村博文・衆議院議員からは、憲法26条を改正し、国公立学校と同様に私学教育を支援する考えのご挨拶があった。

最後に、元文部科学大臣の塩谷立・衆議院議員からは、私学法人のガバナンスをしっかりと定めることで、国民・世間に私学は頑張っていることを明記し、より一層これから私学振興に努力していただきたいなどのご挨拶があり、約1時間にわたった大会は幕を閉じた。

大会終了後、道中高協会と北私学保連の参加者は国会議員会館に移動し、道選出国会議員に対し要請活動を行った。

## 道・道議会・国への要望活動

「令和4年度私学振興に関する懇話会」については、1月に全道大会を開催しているほか、北海道議会教育振興議員連盟の皆様をはじめ、北海道総務部長、北海道教育委員会教育長とも個別に開催し、私学の現状や課題について意見交換を行うとともに、予算要望等を行っている。

### 1. 北海道議会教育振興議員連盟との懇話会

北海道議会教育振興議員連盟の皆様との懇話会は、第1回目を概算要求に向けて6月30日に、第2回目を令和5年度の私学振興関係予算要望に向けて12月14日に開催。

私学の現状や課題等について説明するとともに、私学関係予算について要望し意見交換を行った。



### 2. 令和5年度私立高等学校等関係政府予算に関する要請

少子高齢化・人口減少社会の到来による生徒数の減少に加え、長引く新型コロナウイルス感染症や昨今の原油価格の上昇、円安の進行などによる物価高騰により、私学経営に大きな影響を及ぼしている状況を踏まえ、令和5年度私立高等学校等関係政府予算について、道議会教育振興議員連盟のお力添えをいただき関係省庁及び国会議員への要請活動を行った。

# 道・道議会・国への要望活動

【中央要請】令和4年7月22日（金）

## ・要請内容

私学予算の拡充、公私間納付金負担格差の縮小は正と保護者負担軽減施策の拡充、私立高等学校等施設の耐震化に対する支援の充実強化及びICT環境の整備促進

## 【要望先】

文部科学大臣政務官 高橋 はるみ  
文部科学省私学部長 森 晃 憲  
財務大臣政務官 藤原 崇  
北海道選出国会議員

## 【出席者】北海道議会教育振興議員連盟

会長 中司 哲雄  
幹事長 笠井 龍司  
事務局長 清水 拓也

## 北海道私立中学高等学校協会

会長 西岡 憲廣  
事務局長 濱谷 恵補  
事務局次長 西田 陽一郎



## 3. 北海道総務部長との懇話会

藤原俊之総務部長との懇話会は、8月23日（火）に開催。

明上山副会長と山崎副会長から、私学の現状や課題、私学予算の推移等を説明するとともに、今後の私学振興について意見交換を行った。

## 4. 私立学校における光熱費等の高騰に対する緊急要望

コロナ禍における原油価格の上昇等による光熱費等の高騰により、私立学校の経営を圧迫するなど影響が大きく、料金負担の軽減等により安定的な学校経営を図るため、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」による支援について、9月30日に西岡憲廣会長等から北海道（学事課長）及び北海道議会（教育振興議員連盟会長）に要望した。

## 5. 自民党道連団体政策懇談会における要望

自民党道連が主催する、令和5年度の道の予算要望等の各団体との懇談会について、当協会も北海道私学団体連合会の一員として参加した。

10月14日（金）に開催され、当協会は西岡会長（北海道私学団体連合会議長）と明上山副会長が出席し、「令和5年度私学振興に関する要望書」に基づき、管理運営対策費補助金の充実、私立高等学校授業料軽減補助制度の拡充、入学一時金軽減補助制度の創設、公立高校の定員調整、公立高校の二次募集による私立高校合格者の辞退防止対策などについて要望した。



# 道・道議会・国への要望活動

## 6. 北海道教育長との懇話会

倉本北海道教育長との懇話会は、10月28日(金)に開催。

山崎副会長から、公立高校の間口調整の必要性を説明し、また、公立高校の二次募集の出願資格について、道教委のアンケート調査結果に対する所見を述べるとともに、「入学手続を完了した私立高校合格者」は第二次募集資格者として認めないよう要望した。



## 7. 北海道議会での「私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書」の議決

国の予算時期に合わせて「私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書」を議決していただいている、令和4年度も第2回定例道議会の会期最終日の7月1日に議決していただいた。

意見書は次のとおり。

(令和4年7月1日 原案可決)

**意見案第8号**

**私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書**

私学は、建学の精神と独自の教育理念の下、時代の変化や社会の要請に応じた特色ある教育を実践し、我が国の公教育の発展に大きな役割を果たしてきた。

しかしながら、我が国は、少子高齢化社会の到来というこれまで経験したことのない厳しい時代を迎えており、私学においても、児童生徒の急激な減少と、新型コロナウィルスの感染拡大防止のための対応等により、経営環境はより一層厳しさを増している。

近年ますます国際化・高度情報化が進展する社会において、我が国が持続的に成長・発展を遂げていくためには、新しい時代が求める能力や知力を有するグローバル人材の育成が急務であり、私学は、こうした人材育成のために、これまで以上に自主性や多様性を発揮しながら、社会的役割を果たしていく必要がある。

国は、年収590万円未満世帯を対象とした私立高等学校等の授業料の実質無償化を実現するなど、公私間の格差是正に努めてきたところであるが、私学経営は依然として厳しい経営を余儀なくされており、その安定性・健全性を高めることが何よりも重要となっている。

よって、国においては、こうした私学が置かれている厳しい経営環境や公教育における社会的役割に加え、今般の新型コロナウィルス感染症の教育現場に与えている影響にしっかりと目を向け、次に掲げる事項について支援の一層の充実強化を図るよう、強く要望する。

記

1 私立学校振興助成法の趣旨を踏まえた「経常的経費2分の1補助」の実現

2 公私間の納付金負担格差の縮小は正とさらなる保護者の負担軽減施策の拡充

3 学校施設の耐震化に対する公立学校と同水準の支援

4 公私を区別しないICT環境の整備促進

5 都道府県が実施する私学助成制度に対する財源措置の一層の充実強化

6 新型コロナウィルス感染症の蔓延防止及び感染防止対策の徹底と授業及び学校行事等の影響に対する支援措置の充実強化

7 コロナ禍における電気・ガス料金を含む物価高騰の影響に対する支援措置

以上、地方自治法第99条の規定により提出する。

令和 年 月 日

衆議院議長  
参議院議長  
内閣総理大臣  
総務大臣  
財務大臣  
文部科学大臣

各通

北海道議会議長 小畠保則

# 定例総会・理事会・各部会の活動

## 定例総会

令和4年度の定例総会は、5月10日(火)札幌ガーデンパレスにおいて開催。

西岡会長代行の挨拶に続いて、来賓の道総務部の成田教育・法人局長から挨拶をいただいた。次に、小畠保則道議会議長からのメッセージを紹介。

議長選出を諮り、札幌日本大学学園理事長、札幌日本大学高等学校中学校長の浅里剛之氏が議長に選出され、審議が進められた。

### 1. 審議事項

議案第1号「令和3年度事業報告及び収支決算について(監査報告)」

議案第2号「令和4年度事業計画(案)及び予算(案)について」

○議案第1号及び第2号について、担当部会長及び事務局から説明し、原案のとおり議決。

議案第3号「役員の選出について」

○事務局から、従前どおり「役員選考委員会」による案を提案し議決。直ちに役員選考委員会を開催した結果、会長候補者として西岡憲廣西岡学園理事長、副会長候補者として浅里慎也北星学園女子中学高等学校長、明上山勝己札幌北斗学園理事長、山崎省一北海学園専務理事、監事候補者として永田淑子藤学園理事長、川口淳札幌龍谷学園高等学校長が選出され、拍手をもって承認された。

### 2. 報告事項

報告第1号「理事長・校長の異動等について」

報告第2号「令和4年度暫定予算について」

○事務局から説明し承認。すべての議事を終了し閉会した。

総会終了後の懇親会には、来賓として、北海道議会教育振興議員連盟の遠藤連顧問、中司哲雄会長、千葉英守副会長、吉田正人副会長、田中芳憲副会長、笠井龍司幹事長、佐々木俊雄副幹事長、三好雅副幹事長、丸岩浩二副幹事長、加藤貴弘副幹事長、清水拓也事務局長、佐藤禎洋事務局次長、檜垣尚子事務局次長、衆議院議員秘書等の皆様、北海道総務部の成田正行教育・法人局長、木村重成学事課長にご出席いただき、会員との懇親を深めていただいた。

# 定例総会・理事会・各部会の活動

## 理 事 会

理事会は、定例総会に向けて主に事業報告・収支決算及び事業計画・収支予算を協議するため3月と4月に、また、翌年度の予算要望方針等を協議する会議を8月に開催した。

### 令和3年度 第3回 令和4年3月24日(木)

#### 1 協議事項

- (1) 令和4年度定例総会議案について
  - ① 令和3年度事業報告及び収支決算について
  - ② 令和4年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
  - ③ 役員の改選について
  - ④ 理事長・校長等の異動等について
  - ⑤ 令和4年度暫定予算(案)について
- (2) 令和4年度私立中高振興対策費「特別会計」(案)について
- (3) 懇親会の開催等について

#### 2 報告事項

- (1) 令和4年度私学経営研修会について
- (2) 支部長の異動状況について

### 令和4年度 第1回 令和4年4月14日(木)

#### 1 協議事項

- (1) 令和3年度監査報告
- (2) 令和4年度定例総会の配付資料、提出議案、進め方について
- (3) 令和4年度定例総会懇親会の進め方について

### 令和4年度 第2回 令和4年8月25日(木)

#### 1 説明

- (1) 令和5年度国の文教施策及び予算に関する提案・要望について
- (2) 私立高等学校管理運営対策費補助金の推移について

#### 2 協議事項

- (1) 令和5年度私学振興に関する要望書(案)について

#### 3 報告事項

- (1) 公立高等学校配置計画案(令和5年度～7年度)について
- (2) 令和4年度北海道地区初任者研修会について
- (3) 「2023年版私学ナビ」「令和4年度修学支援リーフレット」の発行について
- (4) 令和4年度北海道私立学校展の開催について

### 令和4年度 第3回 令和5年3月23日(木)

#### 1 協議事項

- (1) 令和4年度事業報告(案)、収支決算(案)について
- (2) 令和5年度事業計画(案)、収支予算(案)、暫定予算(案)、特別会計「私立中高振興対策費」(案)について

# 定例総会・理事会・各部会の活動

## 経営管理部会 部会長 明上山 勝己

### 私学の更なる発展を期して

北海道の私学が直面している前提的問題は、①小・中学校卒業者の減少、②中学・高校生の家庭における経済的状況の悪化、③公教育を担う機関である私学と国公立学校に対する国・各自治体の政策における公私間格差、④学校職員の長時間労働、⑤耐震施設化、⑥Society5.0社会への対応などがあります。

これらの諸問題の解決や是正をめぐり、北海道並びに道議会、道選出の国会議員、私学振興教育議員連盟の方々をはじめ、関係各方面の私学振興にかかる皆様のご理解とご協力を賜りながら、本部会としては、次のとおり私学一体となり忍耐強く活動することができましたことに深く感謝申し上げるとともに、今後更なるご協力、ご支援をお願いするところであります。

#### 1. 令和5年度私学振興予算要望の概要

経費の動向等を踏まえ、父母負担の軽減、教育条件の維持向上、経営安定等を図るため、管理運営費補助の充実（生徒一人当たり単価アップ、補助金総額の確保）、小規模校経営改善促進の継続、耐震化の更なる充実、入学一時金軽減補助制度の創設を要望することとする。

#### <要望事項>

(1) 私立高等学校、中学校及び狭域通信制高等学校に対する管理運営費補助金の増額について（補助単価要望を2%アップ）

私立高等学校管理運営対策費補助金	111.6億円
私立中学校管理運営対策費補助金	10.3億円
私立狭域通信制高等学校管理運営対策費補助金	8.8千万円

（広域通信制は国による直接補助）

(2) 私立高等学校等に対する私学振興方策について

- a. 私立学校振興助成法の趣旨を踏まえ、経常経費の2分の1補助実現
- b. 生徒一人当たり補助単価の引き上げと全国順位を下回らないこと
- c. 国による財源措置の一層の充実と、道の上乗せ額の縮減を行わないこと
- d. 中卒者数の減少の著しい地域の小規模校に対する特別措置
- e. 公私間の生徒納付金格差の縮小・是正、父母負担軽減策の充実
  - ・道の私立高校授業料軽減補助の一層の充実
  - ・高等学校等就学支援金の充実（加算対象世帯の拡大、増額）
  - ・奨学のための給付金制度の更なる充実
  - ・公私間の納付金格差が非常に大きい私立の入学一時金の軽減補助制度の創設
- f. 中卒者減少に対応した公立高校の適切な間口減
- g. 道立高校の第二次募集による私立高校入学手続き完了者の辞退防止対策
- h. 耐震化支援の充実強化

現在、私立高等学校等施設の耐震化率では、北海道は77.1%、全国順位では46位となっています。公立高等学校等の耐震化率はほぼ100%となっており、遅れをとらないよう努めていかなければなりません。

- i. ICT環境整備促進について公立との格差是正
- j. 私立中学校等における家計急変世帯への支援制度充実

# 定例総会・理事会・各部会の活動

## [以下参考]

(3) 公益社団法人北海道私学振興基金協会が行っている私立高等学校に対する経営安定資金貸付制度の継続について

経営安定資金貸付金 9億円（令和4年度 9億円）

短期経営安定資金貸付金 2億5,000万円（令和4年度 2億5,000万円）

(4) 公益社団法人北海道私学振興基金協会が行っている私立高等学校等の教育施設整備事業に対する貸付制度の継続について

貸付金 1億円（限度額）（令和4年度 1億円）

(5) 公益社団法人北海道私学退職金社団が行っている教職員退職金資金給付事業に対する補助金について

補助定率 1,000分の36（令和4年度 1,000分の29）

補助金額 2億8,959万円（令和4年度予算額 2億3,485万円）

現在の負担金率は全国で最高水準の標準給与総額の1000分の171の額を徴収しております。平成26年4月から公益社団法人に移行しましたが、退職金給付事業における要支給額に対する積立金の割合は、全国平均より下回っており、公益法人として今後更なる積立金の充実が求められます。道内の私立学校の教職員等の安定的な人材確保のため、地方交付税で財源措置が講じられている私立中・高等学校教職員等の標準給与総額の1000分の36相当額の道補助金の復活を願うものであります。

(6) 公益財団法人北海道高等学校奨学会が行っている奨学金等の貸付について

奨学金貸付月額

10,000円、15,000円、20,000円、25,000円(公立上限)、

30,000円、35,000円(私立上限)

(上記金額から希望額を選択)

償還期間 12年以内（据置1年）

高等学校奨学会は、向学心に富み、かつ経済的理由により就学困難な高校生等に対して奨学金等の貸付を行うなど、有用な人材を育成する事業を実施しております。令和5年度においても、奨学金の貸付や償還など、事業の運営にあたり支障が生じることのないよう格別なご高配をお願いする。

2. 令和4年度の主な動きとしては、監事による監査（4月11日）、経営管理部会（8月22日、3月9日）、私学振興全道大会（1月11日）を開催したほか、道議会教育振興議員連盟との懇話会（6月30日、12月14日）、道総務部長との懇話会（8月23日）、自民党道連団体政策懇談会（10月14日）、道教育長との懇話会（10月28日）に参加しました。また、令和5年度政府予算要望については、7月22日に道議会教育振興議員連盟のお力添えで、堀井学衆議院議員を通して道議会教育振興議員連盟の中司哲雄会長、笠井龍司幹事長、清水拓也事務局長にご同行願い、財務省、文科省、道選出衆・参議院議員に対し陳情を行いました。

9月30日には私立学校における光熱費等の高騰に対する緊急要望を道及び道議会に対し行いました。

11月9日には全国私学振興大会に参加終了後、衆参議員会館に赴き、道選出国会議員に私学予算について陳情いたしました。

3. 当部会として、私立中高校等に対する助成、就学支援の充実、公私間の生徒納付金等格差是正のための施策充実、公立高校の間口調整等について、今後とも行政機関、関係機関、関係団体と連携をとりながら検討を重ねて参ります。

# 定例総会・理事会・各部会の活動

4. 教育振興部会、研修部会、他団体のご協力により私学の情報誌として「私学振興だより」29号を発刊することができました。担当部会といたしまして感謝申し上げます。今後とも、予算要望等私学振興に反映させて参りたいと思っておりますので、ご指導、ご協力のほどお願いいたします。

## 教育振興部会 部会長 山崎 省一

### 公私協の充実した協議に向けて

いまだコロナ禍の終息は見通せませんが、行動制限の緩和により社会経済活動が活性化し始めて、教育振興部会も予定どおりに諸会議を実施し、行政や議員に私学の要望を伝えることができました。皆様のご理解とご協力に感謝を申し上げます。

2022年はまさに激動の年でした。変化が激しく、先行きの見えない厳しい時代を迎えていきます。こんな時代であるからこそ、それぞれの私学がそのミッションとビジョンを確かなものとし、私学の存在価値を高めることが必要です。私学の教育力は、未来を切り拓く大きな力であり、北海道においてもその役割はますます重要になっています。私学所在学区における公立高校間口調整の改善や公私比率の見直し、公立2次募集における不平等性のは正などについて、継続的に協議し、働きかけてゆくことは、北海道の公教育を守っていくためにも必要なことです。教育振興部会として、さらに取組を強めてまいります。

以下、本年度の具体的経過をご報告申し上げます。

### 第1回教育振興部会(4月13日)

#### (協議)

- (1) 公立高校配置計画（令和5年度～7年度）に係る意見要望について協議するとともに、部会終了後に開催される「公私協」において、道教委に対して要望を行うことを確認。各学区の状況について説明聴取。
- (2) 公立高校等入試の2次募集の状況及び公立高校の2次募集による入学者辞退調べの結果について確認するとともに、高校配置計画に係る意見要望と併せ、2次募集出願資格の見直しについて道教委に要望することを確認。

#### (報告)

- (1) 令和4年度入試に係る出張試験の実施結果について報告
- (2) 令和4年度私立高等学校一般入試に係る追試験の実施結果について報告
- (3) 道内高専の在籍状況（第1学年）について報告

### 第2回公私協議会(4月13日)

- ・公立高校配置計画（令和5年度～7年度）の策定に向けた考え方について、道教委から説明。
- ・西岡副会長から、各学区の具体的な要望を理解し、配置計画に適切に反映するよう要請するとともに、道立高校の2次募集の見直しを要請。
- ・各支部長から、それぞれの学区の実情や課題などについて発言し、中卒者の大幅な減少が見込まれる令和7年度の間口調整を確実に実行することを要望。
- ・その後、明上山部会長から令和7年度中卒者の大幅な減少が見込まれることを踏まえて配置計画を策定すること、都市部における間口調整や再編を進めること、隣接学区における間口調整も確実に行うこと、高専への定員見直しの働きかけ、道立高校の2次募集の

# 定例総会・理事会・各部会の活動

見直しをすることなどを要請。

- ・西岡副会長から谷垣道立学校配置・制度担当局長に意見要望書を手交。

## 第2回教育振興部会(7月11日)

### (協議)

- (1) 6月に公表された令和4年度公立高校配置計画案(令和5年度～7年度)に係る修正意見要望について協議するとともに、部会終了後に開催される「公私協」において、道教委に対し修正意見要望を行うことを確認。  
各学区の状況について説明聴取。
- (2) 高校配置計画に係る修正意見要望と併せ、2次募集出願資格の見直しについて道教委に要望するとともに、道教委で実施した「高等学校入学者選抜の改善に関するアンケート」に関して、意見を述べることを確認。

### (報告)

- (1) 令和5年度入試に係る出張試験実施計画の届出について報告
- (2) 市立札幌開成中等教育学校の入学者選考日程について報告

## 第3回公私協議会(7月11日)

- ・高等学校入学者選抜の改善に関するアンケートについて道教委から説明。
- ・山崎部会長から、アンケート及び道立高校2次募集に関する問題点について発言。
- ・令和4年度公立高校配置計画案(令和5年度～7年度)等について道教委から説明。
- ・明上山副会長の挨拶の後、各支部長からそれぞれの学区の実情や課題などについて発言し、配置計画案の必要な見直しについて要請。
- ・その後、山崎部会長から、令和7年度の間口調整は、各支部長からの発言どおり私学側の要望と隔たり大きいものとなっている。7年度に多くの学区で中卒者数が大幅に減少するするとともに、入選後、定員の2割近くの欠員をかかえている学区もある中で、早急に見直しが必要であること、道立高校の2次募集に関しては、令和4年度の入選では募集人員数が公立高校の定員の15.4%にあたる4,750人となっているが、充足率は極めて低い状況となっており、制度的に無理があるとともに、公私間の信頼を損ねる問題であることから早急に検討願いたいと発言。
- ・明上山副会長から修正意見要望書等を谷垣道立学校配置・制度担当局長に手交。

## 第3回教育振興部会(12月16日)

### (協議)

- (1) 令和5年度公立高校配置計画(令和6年度～8年度)に係る私学意見要望を確認。  
各学区の状況について説明聴取。  
地域別公私協開催日程について報告。
- (2) 高校配置計画の意見要望と併せ道教委に2次募集出願資格の見直しについて要望することを確認。

### (報告)

- (1) 収容定員の変更に関する届出について報告

## 第1回公私協議会(12月16日)

- ・公立高校配置計画(令和6年度～8年度)の概要について道教委から説明。
- ・明上山副会長から、令和4年度の公立高校配置計画について、間口調整が不足している学区も多く残っており、多くの欠員が生じている公立高校の状況をみると私学側として満足できるものではないことを指摘するとともに、2次募集について早急な見直しを要望。
- ・各支部長から、令和5年度の配置計画の検討に向けて、各学区の現状や課題、間口調整要望などを発言。
- ・その後、山崎部会長から、4月の段階で私学側の要望に対する道教委の具体的な考え方を示すこと、令和5年度の配置計画については、多くの公立高校で欠員が生じてこれまでの定員調整が適切に行われていないとの認識のもと策定すること、道立高校の2次募集の見

# 定例総会・理事会・各部会の活動

直しを行うことなどを要請。

- 明上山副会長から意見要望書等を谷垣道立学校配置・制度担当局長に手交。

## 第4回教育振興部会(2月22日)

(協議)

- 入試制度について検証し、令和6年度一般入試についても、A・B日程での実施を確認。
- 令和6年度一般入試日程及び入試日程に係る作業スケジュールを協議。
- 令和4年度事業報告（案）及び令和5年度事業計画（案）について協議。

## 研修部会 部会長 浅里 慎也

### 令和4年度研修事業・研修部会の動き

令和4年度研修部会は企画事業「私立学校初任者研修北海道地区研修会、会期：7月28日（木）～29日（金）、会場：札幌ガーデンパレス、実施：北海道私立中学高等学校協会（運営担当：札幌支部）」「第59回北海道私学教育テーマ別研修会、会期：9月8日（木）～9日（金）、会場：ホテルグランティラス帯広、担当：道東支部」「令和4年度私学経営研修会、会期：令和4年6月2日（木）～3日（金）、会場：札幌プリンスホテル国際館パミール、主催：一般財団法人日本私学教育研究所、後援：北海道、札幌市ほか、その他：参加費の一部を道私立中高協会が助成」、「第70回全国私学教育研究集会 岐阜大会、会期：令和4年10月20日（木）～21日（金）、会場：岐阜市長良川国際会議ほか」を予定し、「第60回北海道高等学校教育研究大会、会期：令和5年1月11日（水）～12日（木）、会場：カナモトホール（札幌市民ホール）ほか、主催：北海道高等学校教育研究会」を後援事業としました。

例年開催されている理事長・理事・校長研修会（トップセミナー）は今年度開催せず、それに替えて6月に開催された日本私学教育研究所主催の「令和4年度私学経営研修会」を充てました。道私立中高協会会員の皆さんと、全国からの学校関係者と交流し研鑽を積む機会となることを期待して実施し、例年には多くの参加者を迎えることになりました。

また、「私立学校初任者研修北海道地区研修会」はコロナ禍の影響を考慮し、感染拡大防止のための制約を設けながらも参加者並びに担当校の協力で実施することができました。

一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮して2年間実施を見送ってきた「北海道私学教育テーマ別研修会」は、直前まで開催を模索しましたが感染拡大が沈静化するに至っていないと判断し、大変残念ではありました中止の判断をせざるを得ませんでした。この間、順延の期間中も開催の準備を続けてくださった道東支部の皆さんにあらためて感謝を申し上げます。令和4年10月20日（木）～21日（金）に開催された「第70回全国私学教育研究集会 岐阜大会」は、道私立中高協会役員を代表して西岡憲廣会長が出席し、全国の私学の状況を見分し情報交換を行うことができました。今年度も三年前から続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響は沈静化することなく、会員校は緊急対応をはじめ、授業・部活動・学校行事等の予定変更を行うなど、昨年とほぼ同様の感染防止対応策を実施しなければならない厳しい状況が続きました。加えて「ICT・情報化」「少子高齢化」「グローバル化」等の課題は今後も私立学校として継続した対応をしていかなければなりません。

# 定例総会・理事会・各部会の活動

協会研修部会は会員各校が建学の精神を基に実践する特色ある教育活動を支援すると同時に、私立中学高等学校全体が魅力ある教育を実践する公教育の中心的存在として、社会から更に認知されるように必要な研修事業を中心時代に相応しい事業活動と内容を、会員各校のご意見を取り入れ検討実施していきたいと考えています。

最後に今年度企画事業を担当してくださった各学校の皆さんに感謝申し上げるとともに、今後とも会員の皆さまの研修部会へのご理解とご協力を願いいたします。

## 〈事業〉

### (1) 私学経営研修会（参加）

(ねらい) 躍進する私学～未来をつくる経営とは～  
(会期) 令和4年6月2日（木）～6月3日（金）  
(会場) 札幌プリンスホテル国際館パミールほか

### (2) 私立学校初任者研修北海道地区研修会

(ねらい) 新規採用教員に対して私立学校教員としての心構えを体得させるとともに実践的指導力の育成を図る。

(会期) 令和4年7月28日（木）～29日（金）  
(会場) 札幌ガーデンパレス  
(参加) 30名  
(担当) 札幌支部（札幌大谷中学校・高等学校、札幌北斗高等学校、札幌光星中学校・高等学校、札幌創成高等学校）

(研修内容) 講義1 演題：私学人の心得

講師：学校法人同志社常務理事 西山 啓一 氏

講義2 演題：いま考えたい、「学校」の伸びしろ

講師：認定NPO法人カタリバ 藤本 雅衣子 氏

講義3 演題：探究活動に求められる資質・能力～SSH指定校等の事例を元にして～

講師：北海道立教育研究所附属理科教育センターワークショップ

柳本 高秀 氏

分科会 学習指導分科会、生徒指導分科会、学級経営分科会

### (3) 全国私学教育研究集会岐阜大会（参加）

(会期) 令和4年10月20日（木）～21日（金）

(会場) 岐阜県長良川国際会議場ほか

(研究目標) これからの時代に対応する私学教育の使命～私学独自の教育の再構築～

### (4) 第60回北海道高等学校教育研究大会（後援）

(研究主題) 北海道の新たな時代を拓く高等学校教育の創造

(会期) 令和5年1月11日（水）～12日（木）

(会場) カナモトホール（札幌市民ホール）

(全体講演) 演題 「データサイエンス・AI教育～これからの北海道を考える～」

講師 北海道大学副学長（IR、数理データサイエンス）長谷山 美紀 氏

(教科別集会) 札幌市内・小樽市内の14会場で開催

## 〈研修部会の主な動き〉

- ① 第1回研修部会 令和4年6月24日（金）
- ② 第2回研修部会 令和4年9月22日（木）
- ③ 私立学校初任者研修地区運営委員全国会議 令和4年10月7日（金）
- ④ 第3回研修部会 令和4年12月14日（水）
- ⑤ 第4回研修部会 令和5年2月24日（金）

# 支部の声

札幌支部 支部長 宮路 真人

就学支援金が追い風となり、また私立各校の特徴ある取り組みへの評価の高まりを受け、石狩学区の私立高校の充足率は、令和3年度からはついに100%を超えるようになりました。平成29年度から5.7%の伸び、平成18年度からは実に10.9%の伸びを示しています。一方公立高校は漸減傾向を続けており、令和4年度入試における欠員は310名にも達しています。北海道は広く、地域による事情は大きく異なり、特に私立非所在地（主に過疎地域）では「教育困難地域」と呼んでもよいエリアが生じつつあります。前例踏襲的かつ一律的な間口の数字調整を続けるのではなく、限られた道の教育予算を有効に活用し、全道すべての高校生が良質な教育を受けられるよう、公私協調のもと地域性に応じたダイナミックな間口調整を行うべきと、私たちは公私立高等学校協議会（公私協）をはじめ、様々な場面でこの主張を続けてきました。これまで「空谷に叫ぶ」感がありました。しかし、12月に開催された公私協において「地域性を考慮して」という文言が示されました。これは小さな一歩です。しかし、大いなる前進につながる一歩と私たちは受け止め、評価もし、期待もしたいと思います。

公私間に横たわるもうひとつの大きな問題が、公立高校の2次募集に関する件です。令和4年度入試における石狩学区の募集人員は実に627名に上ります。これは公立高校の間口数（定員数）がいかに過剰かということを如実に示しています。このことだけを見ても公私の定員調整の形骸化は明らかです。この2次募集で合格した生徒はわずか60名。しかし、そのうちの20名は私学からの入学辞退者です。新年度開始直前の入学辞退は、学校運営や経営に大きな影響を与えます。仮にそのことを抜きにしたとしても、そもそも公立高校の合格者が私立高校の2次募集に応募することは認められず、逆は可というのは、公私の平等性を著しく欠くものであり、官尊民卑もここに極まれりと言ってもよいと思います。この状況が今日まで放置されていること自体極めて遺憾です。北海道私立中学高等学校協会が中心となり、道議会教育振興議員連盟の方々のご協力を仰ぎ、世帯収入590万円を超える世帯に対しても補助金を拡充する件（崖の解消）や入学時一時金への補助金支給の件、公私間で不平等が生じているICT環境整備や耐震化支援の件等々と併せ、ぜひとも改善すべき問題として、積極的に、そして粘り強く働きかけていく必要があります。

今年度の札幌支部の活動は、4月28日の総会で幕を開けました。今年は支部長・事務局長の交代があり、不肖私が支部長を務め、事務局長を札幌日本大学中学校・高等学校の浅利剛之校長が務めることとなりました。総会では令和3年度の活動報告・決算報告・監査報告、令和4年度の活動計画ならびに予算案が審議され、了承されました。昨年度の第3回支部会において、なお公立の風下に置かれている私学の地位向上を図るために入試制度の見直しを図ってはどうかとの意見が出、入試制度全般について協議する機関を設け検討していくことが決まりましたが、この総会において協議メンバーについて決定しました。この「入試制度検討委員会」は、7月の第2回支部会と11月の第3回支部会の後に論議を行い、次年度総会の際に途中経過を報告することになっています。第2回支部会は、札幌市中学校進路指導協議会（札進協）からの要望事項の共有を中心議題として、第3回支部会は札進協からの要望への回答案の審議を中心議題として開催されました。それぞれの支部会に先立って、議題調整のための役員会も開催しました。また、札進協とは7月ならびに11月に定期協議の場が設けられており、かつては要望を承り回答するという形式的な行事に陥りがちでしたが、高校側からも積極的な働きかけを行うとともに、生徒募集という利害関係に必要以上に忖度するのではなく、教育に

# 支部の声

携わる者同士、率直な意見交換をしようという雰囲気が少しずつ醸成されてきており、好ましい関係性の構築を今後とも図っていきたいと考えています。今年はいつになく早く、9月8日に「政策要望懇談会」が開催され、札幌市の予算編成にあたっての要望事項への協力をお願いしてきましたが、その際に直接的には関係ないとしても側面協力をお願いしたいと、間口調整問題等についても訴えてきました。

札幌支部各校は、昨年、今年、そして来年にかけ、順次WEB出願を導入することとなっており、令和5年度には全日制のすべての学校がその体制を整えることとなります。この実現にご尽力いただいた前支部長の大西先生には、改めて深く感謝の意を表します。

札幌支部各校がこれからも、北海道のよりよい教育を実現するという共通目標のもと、それぞれの特性を十全に發揮しつつ、良き協力関係を築いていくことを強く期待いたします。

## 函館支部

支部長 山田 伸二

令和4年度の渡島学区の中卒者推計では、令和5年から11年は498人の減少（令和8年から11年は266人減少）が見込まれることから、道教委へ学校配置・再編を含めた定員調整の検討を以下のように要望してまいりました。

令和4年度配置計画に係る意見要望として、北海道教育委員会が令和7年度から10年度まで6～7間口減を見通していること、令和9年度は微増にはなるもののこの4年間で11学級に相当する438名が減少することを踏まえ、令和7年度3間口、令和8年度は2間口、令和10年度2間口減としましたが、令和7年度は学級減なしという結果でした。到底納得できるものではなく、修正要望では、調整の方向性で説明のあった直近調整年（R5）と同数の中卒者数としている点に関して、地域別検討協議会学区別検討資料の内容との齟齬を感じざるを得ないこと、ましてや、令和8年度に107人の大幅な中卒者減が見込まれることを考慮していないことを訴えました。

令和3年12月7日の公私協で道教委は、「渡島学区は非常に大きな中卒者の減が予想されており、私どももやらなければならない状況は理解している」とし、さらに、令和4年4月13日の公私協では、「説明が安定せずに申し訳ない。中卒者減に従って調整していくことと積み残しは解消していくべきという基本の考え方は変わらない」との説明でした。学区内では、令和7年度に前年度比205名減、令和8年64名減、令和10年152名減、令和11年51名減と減少傾向が続き、さらに、函館市の中卒者の減少は、令和7年度から令和10年度まで続く。これらを勘案し、中卒者減少と議事録にも記載されている平成30年度からの積み残し分から、令和8年度3間口減、令和10年度3間口減、令和11年度1間口減を要望いたしました。

次に中卒者急増期に新設された七飯高校については、平成20年より14年間3間口が続いていること、この度、改定が進められている高校づくりに関する指針においても示されている学級規模（4～8学級）になっていない状況にあることから早急に再編すべきと考える。以上に加え、函館高専が高校配置計画の枠外にあることは改善していかなければならぬ重要な課題であると考えている。

例年記載していますが、私立高校所在の都市部においては、私立高校の人数割りの比率を多くし、その分、私立では補うことが難しい郡部に税金を投入するようにすべきと考えている。

# 支部の声

函館市の将来を担う子どもたちにとっての安全を守り、生き生きと学べる環境づくりなど、未来に向けた新しい学校のあり方を函館支部8校がお互い協力し合い、模索し構築していくたいと考えている。

是非とも、実りある結果が今後の高校配置計画に生かされることを切に願っている。

## 小樽支部 支部長 佐々木 淳一

コロナ禍の中、支部の活動ができなかったことから、今回は、小樽の変遷を紹介したいと思います。

小樽は、明治から大正にかけて、ニシン漁などで活況を呈したほか、漁港、商港として整備された港湾を持つ物資の供給基地の拠点として発展し、明治末期には全国屈指の経済都市、物流の拠点である港湾都市となりました。

港湾都市づくりに貢献したのが、現存する「小樽港北防波堤」と「小樽運河」の完成でしょう。北防波堤は、札幌農学校2期生の廣井勇氏（同期には内村鑑三、新渡戸稻造、宮部金吾などの俊英がいる）による独特の傾斜ブロック工法を採用した日本初の外洋防波堤で、10年以上の苦難の工期を経て完成しています。100年以上たった今も現役で機能しています。小樽運河は、大型船が直接接岸できるようになると、その役目を終え、行政側から全面埋立て案が示されましたが、市民との対立の中、半分埋立て、半分保存という折衷案で決着が図られました。残った運河は観光スポットの目玉として役目を果たしています。

また、当時の建造物として「旧日本郵船株式会社小樽支店」、「日本銀行旧小樽支店」が現在も資料館として残っており、かつての栄華を今に伝えています。

大正9年の第1回国勢調査では、小樽区の人口は約10万8千人で札幌区の約10万2千人をわずかに上回っていました。函館区に次ぐ道内第2の都市であり、全国13位の大都市に数えられていました。

その後も繁栄したかに見えた小樽でしたが、昭和30年代に入ると、石炭需要の低下や港湾貨物の情勢変化により港湾都市としての役目が終わり、銀行、商社、貿易関係会社の本・支店の撤退が相次ぎ、主要産業を失った小樽は「斜陽の街」となっていきました。人口も昭和35年の約19万人をピークに減少し、現在は約11万人と減少の一途をたどっています。

道内屈指の経済都市であった小樽の学校教育も札幌区同様に早くから整備されてきました。現在の潮陵高校は、明治35年に旧制中学として開校、また、現桜陽高校は明治39年に府立高等女学校として開校しています。水産高校は明治38年に府立水産学校として開校しています。私学では、北照高校が明治34年に小樽商業学校として、双葉高校は明治40年に小樽実践女学校として開校しています。札幌山の手高校も明治44年に小樽女子職業学校として開校しています。

このように明治期の小樽区では、府立の学校が旧制中学1校、高等女学校1校、水産専門学校1校、そして私立学校が3校という教育環境でした。

尋常小学校、高等小学校を卒業したらすぐに就職という、進学率が低かった時代にもかかわらず、多くの進学希望者がいたことが想像でき、教育に関する期待が高い地域であったことが想像できます。

# 支部の声

旭川支部

支部長 山本 周男

今年度旭川支部ではベテランの校長先生方がご勇退され、新たなメンバーをお迎えしての支部活動となりました。ご勇退された方は、前支部長で旭川実業高等学校の相馬真吾校長先生、旭川大学高等学校の阿部敏校長先生、旭川龍谷高等学校の中田伸次校長先生、旭川明成高等学校の五十嵐暁郎校長先生、稚内大谷高等学校の中尾忠校長先生の5名です。宗谷を含めた旭川支部全日制6校のうち5校の校長先生がご勇退されたことは昨年、本支部の校長の仲間入りをさせていただいたばかりの私にとって大きな衝撃でありました。そのような中、私が旭川支部長を仰せつかり支部活動を何とか進めてこられたのも、新しく校長として入られた、宮下靖広校長先生、内藤佳和校長先生、山内亮二校長先生、田中義彦校長先生、平岡祥孝校長先生のご協力とご支援のおかげでした。とりわけ、前支部長であった相馬真吾前校長先生には丁寧な引き継ぎ資料と支部長業務についての直接のレクチャーをいただきましたことに深謝申し上げます。相馬校長先生の温かなお人柄と私学人としての矜持をもったお話は、これから私学の在り方についてのコンパスとして旭川支部を導いてくれるものと心に刻んだところです。4月の支部総会は今年もコロナ禍の影響を受けましたが、支部総会終了後に、密を避けて短時間で慰労会を行うことができました。

諸先輩方が築いてこられた私中高旭川支部の良き伝統である私学間の密なる連携と公立校との競争と協調を継承、発展させるために新しい支部活動に力を尽くしたいと思います。

旭川市内を含めた上川南学区では令和5年度高校入試に係る生徒数が169名減と厳しい状況ですが、12月段階の事前受付では市内私学5校ともに昨年を上回る専願者数が見込まれ、私学への大きな期待が伺えます。旭大高校野球部の甲子園出場、龍谷高校の11年連続全国駅伝、実業高校の春高バレー女子20回目の優勝はじめ3つの部の全国出場、明成高校の吹奏楽部全国最優秀賞など日常の生徒指導に力を尽くしている先生方の成果の表れと思われます。

今後もそれぞれの建学の精神を軸に、更に特色のある時代を先駆けた教育活動を推進し、道北に私学ありと誇れる学校経営を互いに切磋琢磨しあいながら進めていく所存です。

## ☆旭川支部主な活動

### 1 旭川市内中学校長会及び上川管内中学校長会との合同懇談会

開催日：令和4年6月1日（水）

場 所：アートホテル旭川

出席者：市内各私立高等学校長（クラーク記念国際高校含む）、旭川市中学校長会役員（8名）、上川管内中学校長会役員（8名）

課 題：令和5年度入学者選抜検査日程等、「就学支援金制度」等、中学校側からの意見交換、コロナ禍における中高連携の在り方

### 2 支部会議の開催

#### (1) 第1回

開催日：令和4年4月19日（火）

場 所：アートホテル旭川

出席者：各学校長、副校長、教頭、事務長他（25名）

# 支部の声

議題：令和3年度事業報告収支決算報告、令和4年度事業計画、予算案  
令和4年度入学者数確認  
令和5年度入試日程等について  
公立高校配置計画に係る修正意見要望について

(2) 第2回

開催日：令和4年6月24日（金）  
場所：士別市文化センター  
出席者：各学校長、クラーク記念国際高等学校副校長他（8名）  
議題：令和4年度私学経営研修会報告、各校の募集行事日程確認  
中高情報交換会議のまとめと就学支援金制度パンフレット配布確認  
令和7年度公立高校配置計画案等に係る修正要望

(3) 第3回

開催日：令和4年12月8日（木）  
場所：旭川藤星高等学校 クサベラ館  
出席者：各学校長、副校長、教頭他（11名）  
議題：令和5年度入学者選抜に係る入試業務日程等の確認（追試験含む）  
令和5年度入学者選抜に係る志願者事前受付状況

3 その他

地域別公私立高等学校協議会（上川南学区）  
開催日：令和5年1月18日（水）10:30～12:00  
場所：旭川藤星高等学校 クサベラ館

**胆振支部** 支部長 山口 祐正

胆振支部は駒澤大学附属苫小牧高等学校、苫小牧中央高等学校、北海道栄高等学校、北海道大谷室蘭高等学校、海星学院高等学校の5校で構成されております。

今年度より胆振支部長を仰せつかりました。新たに駒澤大学附属苫小牧高校今野彰校長が就任され我々の仲間に加わり新年度がスタート致しました。

毎年3月の連絡協議会終了後には送別会、4月には歓迎会を行っておりましたが、コロナ禍の影響で2年間開催されませんでした。勇退された駒澤大学附属苫小牧高校の笹島清治先生の送別会も行えず申し訳なく思います。

令和4年度も新型コロナウイルスの影響で活動はほとんど実施出来ませんでした。

公立高校配置計画においては、毎年間口減を要望しておりますが、間口減ができないのなら、学区内で一律に1学級あたりの募集人数を減ずることにより、学区全体で生徒減少分をまかねるならば、特定の高校にのみ間口減の痛みを回避でき、中卒者数の増減にも対応でき、同時に教育の質的向上も期待できるはずです。

義務教育でも35人学級が動き出し、その後は中学校が35人学級を実施していく流れである。今以上の教育環境の充実に努めるためにも40人以下学級に向け、国に対して定数改善に努めて頂きたい。そうすることによって中卒者数の増減に柔軟に対応出来るとともに、間口減の痛みもともなわず、少人数教育により教育の質的向上も果たせます。

# 支部の声

また、北海道は特殊な広域分散社会であり、本道独自の少人数学級の導入も検討すべきではないかと考えます。

その他に公私間にはさまざまな格差があります。就学支援金等で縮まったとはいえ、入学一時金の納付金格差がありますし、2次募集では公立高校合格者は他の公立高校を受験できないにもかかわらず、私立高校の合格者は公立高校の2次募集を受けられるなど不平等を感じます。

ICT環境整備についても施設設備の導入が急務となっておりますが、これについても格差を感じます。他にも公私間のさまざまな格差があるので、是正を目指していただきたい。せめて同じ土俵で戦える環境にしてほしいと思います。

私学に配慮した削減をお願いするとともに、今後も私学が地域でさらに教育を担っていけるような定員調整をお願いしたい。

今後とも各校の建学の精神で特色ある教育活動を推進し、私学5校連携を密にして、問題解決、教育の充実を図ってまいります。

## 1. 令和4年度 胆振支部主な活動

### 定例総会

日時：令和4年4月22日（金）午後2時

場所：苫小牧中央高等学校

- 議題：
- (1) 2021年度決算報告
  - (2) 2022年度予算（案）
  - (3) 2022年度事業計画
  - (4) 各高の入学者状況・二次募集による影響等
  - (5) 公立高校配置計画について
  - (6) 胆振支部連携事業について
  - (7) 情報交換

### 第1回連絡協議会

日時：令和4年7月15日（金）午後2時

場所：苫小牧中央高等学校

- 議題：
- (1) 第2回教育振興部会報告
  - (2) 第3回北海道公私立高等学校協議会報告
  - (3) 第2回公立高等学校配置画について（胆振西・東学区）
  - (4) 情報交換
  - (5) その他

### 第2回連絡協議会

日時：令和4年11月18日（金）午後2時

場所：苫小牧中央高等学校

- (1) 「これからの中学校づくりに関する指針」改訂版の意見要望について
- (2) 令和5年度公立高等学校配置画（令和6年～8年度）に係る意見要望について（胆振西・東学区）
- (3) コロナ急拡大による各学校の対応について

# 支部の声

(4) 情報交換

(5) その他

## 第3回連絡協議会

日時：令和5年3月10日（金）

場所：苫小牧中央高等学校

(1) 第1回北海道公私立高等学校協会報告

(2) 地域別公私立高等学校協議会について

(3) 情報交換

(4) その他

## 2. その他

### 地域別公私立高等学校協議会

日時：令和5年1月12日（木）

場所：胆振東 苫小牧中央高等学校（胆振東学区）

胆振西 海星学院高等学校（胆振西学区）

**道東支部** 支部長 嶋野 幸也

新型コロナウイルスもオミクロンからケルベロスやらグリフロンやらとやたらおどろおどろしいネーミングに変身し、この年末には第8波のピークを迎えるかのように言われていますが、おそらくこれまでの経験から、正月が過ぎ、冬休みが終わって学校が再開した後には、また感染が拡大し第9波が始まるのではと思っています。各校の校長先生方も、コロナ対応には辟易させられていることでしょう。それとも最初の頃とは違って、校内で多少の感染者が出たとしても、「どーんと来いや！」って感じで、良い意味開き直っておられるかもしれません。（私も含めて・・・）だけど、やっぱりコロナ前の日常に一日も早く戻りたいと切望しています。

さて、今回の「私学振興だより」では、道東支部でも、特に私どもの十勝学区が抱えている課題について、皆さんに是非とも聞いていただきたいと思います。

十勝学区では、毎年6月上旬に、帯広市中学校長会事務局及び十勝小中校長会事務局の校長先生方と連絡協議会を開催しています。その連絡協議会では、中学生の特待勧誘について、中学校への訪問開始日を10月1日以降とするよう申し合せで決まっております。

その趣旨は、勧誘されて早い段階で高校への進路が決まってしまうことで、中学生の生徒指導に支障を來す恐れがあるからとのことです。

同じ教育に携わる者として、中学校側に迷惑が掛かるのなら致し方ないということで、私ども十勝学区の私学は10月まで十勝管内での生徒勧誘を控えてきました。

しかし、実際に10月に入って動き出してみると、有望な選手は、すでに他の高校に進学が決まっており、よく話を聞いてみると、春先には勧誘を受けて進学先を決めてしまっているということがわかりました。当然、中学校を介さずに、本人と保護者に直接会って話を決めて

# 支部の声

---

いるのです。

私学は民間企業ですから、常に競争原理に基づいて行動することは理解できなくもないところでありますが、何か釈然としない気持ちになるのは、私だけでしょうか？

生徒指導は、学校の中でも一番難しい対応が求められるもので、校長なら誰しもその苦労はわかると思います。

聞くところによると、こうした制限を設けているのは、釧路と函館、それに十勝だけだそうです。他の地域に合わせて制限をなくせば良いという多数決のような考え方で進んでいいって良いのかどうか・・・。経済的論理と教育的配慮を天秤にかけたとき、はたしてどうすべきなのか。私の悩みはつきないのであります。どなたか穩便な解決策があれば、ご教示下さい。

それからもう一点。私学テーマ別研修会についてであります。令和2年度に当番になって以来3年連続で中止となってしまいました。

年度当初から道東支部の各校で手分けして準備してまいりましたが、道内でも十勝地方の新規感染者が抜きん出て多い状況があり、やむなく開催断念との判断に至ったものです。

毎年楽しみにされていた先生方もおられたと思いますし、十勝のおいしい食で、皆さんをおもてなしできれば嬉しかったのですが、誠に残念な思いであります。

楽しみはまたの機会にとっておいて下さい。

最後に道東支部の活動状況ですが、今年度も新型コロナの影響で5校が一堂に会することはできませんでした。数少ない活動内容ですが以下列記します。

○ 4月12日（火） 道東支部総会（書面開催）

①令和4年度道東支部役員及び事務局体制について

②令和4年度会費について

③第59回北海道私学教育テーマ別研修会帯広大会について

○ 5月31日（火） 道東支部（十勝学区）校長会議

①帯広市中学校長会事務局・十勝小中校長会事務局との連絡協議会について

②第59回北海道私学教育テーマ別研修会帯広大会について

○ 6月7日（火） 帯広市中学校長会事務局・十勝小中校長会事務局との連絡協議会

○ 10月5日（水） 私学3校合同入試説明会（於：白樺学園高校）

○ 1月20日（金） 地域別公私協（オホーツク中）

○ 1月30日（月） 地域別公私協（釧路）

○ 1月31日（火） 地域別公私協（十勝）

# 私立高等学校周年行事記念式典

## 学校法人 札幌日本大学学園 札幌日本大学中学校

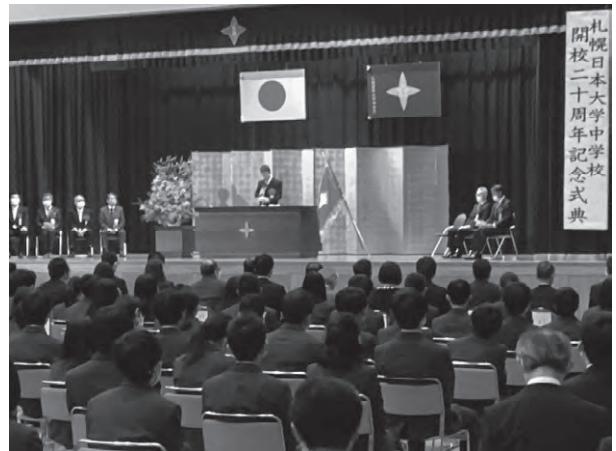
式典名 学校法人 札幌日本大学学園  
札幌日本大学中学校開校 20周年記念式典

開催日 令和4年10月9日（日）

場所 記念式典 札幌日本大学高等学校体育館  
記念祝賀会 札幌プリンスホテル  
国際館パミール

出席人数 記念式典 732名（含生徒）  
記念祝賀会 208名

特記事項 課題研究発表・英語弁論発表  
開校 20周年記念誌発行



## 学校法人 札幌静修学園 札幌静修高等学校

式典名 札幌静修学園創立 100周年記念式典

開催日 令和4年10月21日（金）

場所 札幌静修高等学校体育館

出席人数 900名（含生徒）

※新型コロナウイルス感染防止のため、  
生徒の体育館入場は3年生のみ  
(1, 2年生は教室にてリモート視聴)

特記事項 1. 記念式典  
第1部 式典  
第2部 記念講演  
テーマ 「歴史を知る、今を生きる」  
講師 梶 久美子 氏（ノンフィクション作家）  
第3部 記念公演「静修100年」（本校文化系クラブによる）  
2. 100周年記念DVD発行  
3. 100周年記念事業  
(1) 通信制課程の設置（令和5年度）  
(2) 新制服の導入（令和6年）  
(3) 新校舎建設（令和7年に体育館、令和9年に新校舎の使用開始を予定）



# 北海道社会貢献賞(私学教育功績者)



永年にわたり私学教育の向上に専心され、本道の私学振興に多大な貢献をされている方々に贈られる、令和4年度「北海道社会貢献賞（私学教育功績者）」の表彰式が、11月7日（月）札幌ガーデンパレスにおいて挙行された。

当協会からは、学校法人野又学園理事、函館大学付属有斗高等学校校長の山田伸二様が受賞された。

山田先生には、今後ますますお元気でご活躍されますことを祈念申し上げます。

## 《山田伸二様のご略歴・ご功績》

### 【ご略歴】

昭和55年 神奈川大学法学部法律学科卒業  
昭和56年 函館大学付属有斗高等学校専任講師  
昭和57年 函館大学付属有斗高等学校教諭  
平成20年 函館大学付属柏稜高等学校教頭  
平成23年 函館大学付属柏稜高等学校校長  
平成25年 学校法人野又学園理事  
平成27年 函館大学付属有斗高等学校校長

### 【ご功績】

函館大学付属有斗高等学校で専任講師として勤務後、同校教諭を経て、函館大学付属柏稜高等学校で教頭、校長として就任し、現在は学校法人野又学園理事及び函館大学付属有斗高等学校校長として、永年にわたり高等学校教育の充実と発展に貢献している。学校法人野又学園の学園訓である3ヶ条“報恩感謝 常識涵養 実践躬行”を具体的信条として、高度に発達した人材育成することを目的とした教育活動に、リーダーシップを發揮して積極的に取り組むとともに、函館大学付属有斗高等学校では、すべての学力の基礎となる学習指導、豊かな人間性を育むクラブ指導、社会に適用する人間を育成する生活指導を三本柱とした人間教育を実践し、道内外に有為な人材を社会に送り出している。また、函館私学振興協議会副会長や北海道私立中学高等学校協会理事、函館支部長、教育振興部会委員のほか、日本私立中学高等学校連合会評議員、北海道教育推進会議特別委員として、北海道の私学教育及び高等学校教育の振興発展に果たした功績は顕著である。

# 北海道私立中学高等学校保護者会連合会

令和4年度も、これまでと同様に「私学助成の拡充」と「父母負担の軽減」を目標に、全国的な組織である日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会や、全道的な組織である北海道私立中学



高等学校協会と連携を密にしながら、積極的な要望活動を展開するとともに、保護者会の活性化を図るための活動に取り組んだ。主な活動は次のとおり。

## 1 北海道私立中学高等学校保護者会連合会定期総会及び講演会の開催

開催日 令和4年6月4日（土）

場所 札幌ガーデンパレス

総会には、北海道私立中学高等学校協会の西岡会長を来賓としてお招きし、全道の保護者会の代表者など36名が出席した。令和3年度の事業報告と収支決算、令和4年度の事業計画と収支予算、役員選出について審議が行われ承認された。

総会終了後の講演会では、北海道環境生活部文化振興課縄文世界遺産推進室の阿部千春特別研究員を講師としてお招きし、「世界文化遺産に登録された北海道・北東北の縄文遺跡群」をテーマにご講演いただき、北海道・北東北の縄文遺跡群と、1万年以上も続いたその時代の人々のくらしや精神文化などについて理解を深めた。

## 2 日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会令和4年度総会・研修会への参加

開催日 令和4年7月7日（木）～8日（金）

会場 高知市 ザクラウンパレス新阪急高知

「今こそ私学から発信～教育が未来を拓く～21世紀（明日を）を担う子どもたちのために～」をテーマに高知市で開催され、各都道府県から約150名が参加した。北私学保連から正副会長など4名が出席し、全国の保護者会の方々と交流を深めた。

## 3 北海道私立中学高等学校保護者会連合会理事会の開催

開催日 令和4年10月29日（土）

場所 TKPガーデンシティ札幌駅前

2回目の理事会を開催し、令和4年度の活動経過及び令和5年度の私学予算の要望、今後の活動予定について協議を行った。

## 4 令和4年度青少年育成研修会への参加

開催日 令和4年11月18日（金）

場所 名古屋市 名古屋ガーデンパレス

「私学における学びとは」、「子どものいのちを守るために～子どもの自死に対して大人はどう向き合えば良いのか？～」を演題とする2部形式で開催され、北私学保連から会長・副会長の2名が参加した。

# **北海道私立中学高等学校保護者会連合会**

---

## **5 要望活動等**

### **(1) 私学振興全国大会への参加**

開催日 令和4年11月9日（水）  
場 所 東京都アルカディア市ヶ谷

全国の私学関係者とともに、私学振興に係る補助金等の拡充強化など、国に対する要望を決議した。

大会終了後は、衆参両議院会館において北海道選出国會議員に要望活動を実施した。

### **(2) 私学振興に関する懇話会全道大会への参加**

開催日 令和5年1月11日（水）  
場 所 札幌ガーデンパレス  
参加者 188名

北海道私学団体連合会が主催する全道大会に、会員が参加し、私学がおかれている厳しい状況について情報を共有するとともに、私学教育の充実発展を図ることを確認した。

## **6 公立高等学校配置計画地域別検討協議会への参加**

道教委が、道内の学区ごとに市町村や学校（公立・私学）の関係者などと、公立高等学校の配置について意見交換を行う、公立高等学校配置計画地域別検討協議会に出席した。

# **北海道私立高等学校事務長会**

---

**会長 金村 周一**  
**(北海高等学校事務長)**

第44回北海道私立高等学校事務長会の「総会・研修会及び懇親会」は、新型コロナウィルス感染拡大防止と会員の皆様方の健康を留意して、総会は書面開催、懇親会は中止、研修会のみオンライン会議システムZoomを活用し、3部構成という形式で実施をいたしました。

研修会の開催には、会員の皆様にはグーグルフォームでアンケート調査にご協力していただき、また役員会においても様々な参考になるご意見を賜りました。お陰をもちまして、事務長会の目的である「学校事務における共通の問題点を取り上げ研究・研修する」ことを無事に終えることができ、会員相互の情報交換を図ることができたのではないかと思っております。

### **◎令和4年度開催内容**

#### **1 書面総会審議事項**

- (1) 令和3年度 事業報告と決算報告
- (2) 令和3年度 監査報告
- (3) 令和4年度 事業計画（案）と予算（案）

#### **2 承認等**

回答書の承認をもって会則第6条の決議とした。

#### **3 研修会**

- (1) 「学校の安全・危機管理について」
- (2) 「日本の年金制度の概要について」
- (3) 「管理運営対策費補助金・修学支援について」

# 北海道私学団体連合会

令和4年度における北海道私学団体連合会の事業計画を検討するため、令和4年4月12日に事務局長会議を開催し、昨年に引き続き、例年6月に開催している代表者・事務局長会議及び懇親会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止することとした。また、令和4年度の事業計画（案）について協議した結果、1月の新年互例会及び私学振興に関する懇話会全道大会については、新型コロナウイルスの感染状況等を踏まえ、開催の可否を判断することとした。

10月14日に北海道私学団体連合会代表者・事務局長会議を開催し、令和4年度事業内容、令和4年度私学振興に関する懇話会全道大会の開催要領などについて協議した。

その後、自民党道連等の団体政策懇談会に出席し、各私学団体から令和5年度北海道私学予算について要望を行った。

令和5年1月4日に新年互例会を各私学団体の代表者が出席し開催。道からは総務部長、教育・法人局長、学事課長、担当課長補佐の皆様にご出席をいただき、各団体の代表者と懇親を深めていただいた。

## 《北海道私学団体連合会構成団体》

議長 西岡憲廣

北海道私立中学高等学校協会、(公財)北海道高等学校奨学会、  
(公社)北海道私学振興基金協会、(公社)北海道私学退職金社団、  
(公社)北海道私立幼稚園協会、北海道私立幼稚園振興会、  
(公社)北海道私立専修学校各種学校連合会、北海道学校法人立専修学校協会、  
日本私立大学協会北海道支部、日本私立短期大学協会北海道支部  
(事務局 北海道私立中学高等学校協会)

## 私学情報の発信

### 【北海道私立学校展】

令和4年度は9月4日（日）に札幌ガーデンパレスで3年ぶりに開催した。35回目となる今回は、道内の中学校10校と高等学校27校の合計37校が出展した。

当日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予約制とし入場を制限しての実施となつたが、多くの児童・生徒や保護者の皆さんのが来場し、関心のある学校のブースで、担当の先生の説明を熱心に聞き入っている姿が多く見られ、進路選択の参考としていた。

入場制限により、来場者は前回開催時（令和元年度）より少なく4割程度となつたが、相談件数は、前回開催時の6割強となる1,148件となっており、私学への関心の高さが窺えた。

日本政策金融公庫や北海道高等学校奨学会などによる「修学支援金等相談コーナー」においては、保護者の皆さんのが相談を行つてゐた。

この他、制服メーカー各社のご協力による制服展示コーナーにおいても、児童・生徒や保護者の皆さんのが、気になる学校の制服を見比べたり、写真を撮影したりしていた。

会場入口近くに設けられたパンフレットコーナーは1か所で多くの私学の資料を入手できると好評で、来場者の皆さんのが関心のある学校のパンフレットなどを持ち帰つてゐた。

来場された方々からのアンケートでは、「学校を決めるうえで役に立つイベントだと感じた」、「パンフレットや制服などがとても参考になり、高校の先生と話しができるので、学校内の様子が分かったことがとても良かった」などといった意見が寄せられた。

今後も、道内の私立中学・高等学校が連携しながら様々な機会を通じて、私学の魅力や特徴などを発信していくこととしている。



# 私学情報の発信

## 【私学ナビ】

令和4年7月に、道内に所在する私立中学・高等学校のガイドブック「私学ナビ（2023年版）」を発行し、道内の小学校と中学校、関係機関などに配付した。

私学の特長を紹介した「私立学校の魅力」コーナーや豊富な写真で私学の良さをアピールした「School LIFE」コーナー、それぞれの学校の特色やアピールポイント、学科・コースなどの情報を盛り込んだ学校紹介コーナーのほか、入試日程や納付金内訳、オープンスクールの日程などを一覧表で掲載している。

夏休み期間中に、ご家庭で進路選択の検討材料としてご活用いただけるよう、修学支援金制度のリーフレットと併せて、夏休みが始まる7月下旬までに各学校にお届けした。

今後も編集内容を工夫し、見やすく分かりやすい誌面づくりを通じて、小中学生・保護者の皆さんに一層親しまれ、活用される「私学ナビ」の発行に取り組んでいく。

私学ナビをご希望される方は北海道私立中学高等学校協会事務局まで。



## 【ホームページ】

インターネットを活用した情報発信の充実を図り、子どもたちにも親しみやすく分かりやすい情報を提供するため、ホームページを開設し、学校紹介や入試関連情報、修学支援制度など私学の特色や魅力、関連情報を発信している。

アドレスは次のとおり。

URL:<https://www.doshigaku.jp/>

## 【修学支援リーフレット】

国の就学支援金制度や道の授業料軽減補助制度、奨学のための給付金制度、北海道高等学校奨学会の貸付制度等の内容を盛り込んだリーフレットを5月に18万部作成した。昨年度から、道の授業料軽減補助制度が最大で2,000円（月額）まで増額されたことから、国の授業料支援金制度を合わせると最大で35,000円まで補助を受けることができるようになった。また、授業料以外の教育費の負担を軽減するための「奨学のための給付金」は、昨年度に引き続き増額された。こうした制度を幅広く周知するため、会員校が生徒募集資料として活用するとともに、全道の中学生と小学校6年生全員に対して配付した。



# 道教委 情報ボックス

## 公立高等学校配置計画（令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度））の概要

### ○ 策定の考え方

<b>&lt;趣旨&gt;</b>	高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本とし、中卒者数の状況を踏まえ、学校・学科の配置や規模の適正化を図るため、令和5年度（2023年度）～7年度（2025年度）の計画を策定するとともに、令和8年度（2026年度）～11年度（2029年度）までの見通しを示す。
<b>&lt;基本的考え方&gt;</b>	指針に基づき、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情等を考慮しながら、定員調整や再編整備等を行うとともに、多様なタイプの高校づくりを推進。
<b>&lt;計画変更&gt;</b>	配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減や生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合は、計画を再検討。

### 1 令和5年度（2023年度）（令和3年度（2021年度）決定）高校配置計画の変更について （※計画案からの変更箇所は、下線のとおり）

課程	区分	学校名	計画変更の内容
全日制	学級増 +9	栗山 +1 湘別 +1 余市紅志 +1 清水 +1 伊達開來 +1 広尾 +1 羽幌幌 +1 池田 +1 美幌幌 +1	○令和4年度（2022年度）の入学者選抜の結果、学級減を行った20校のうち、9校について、中卒者数の状況などを勘案し、それぞれ1学級増
	地域連携特例校の導入	天塩 (協力校：留萌) 兄弟子屈 (協力校：釧路江南)	○教育環境の維持向上を図るために、地域連携特例校を導入

### 2 令和6年度（2024年度）（令和3年度（2021年度）決定）高校配置計画の変更について （※計画案からの変更箇所は、下線のとおり）

課程	区分	学校名	計画変更の内容										
全日制	学級減	利尻	○生徒の進路動向を考慮し、商業科を学級減										
	募集停止	留辺蘿	○特色ある教育活動の一部を近隣校に引き継ぐため、令和5年度（2023年度）の募集停止を1年間延期し、令和6年度（2024年度）募集停止										
全日制	学級減 学科転換	釧路商業	○学級減に伴い、既存の4学科を流通マネジメント科、会計マネジメント科、情報マネジメント科に学科転換 <table border="1"><tr><td>学科転換前</td><td>学科転換後</td></tr><tr><td>国際ビジネス科（1学級）</td><td>流通マネジメント科（1学級）</td></tr><tr><td>流通経済科（1学級）</td><td>会計マネジメント科（1学級）</td></tr><tr><td>会計科（1学級）</td><td>情報マネジメント科（1学級）</td></tr><tr><td>情報処理科（1学級）</td><td></td></tr></table>	学科転換前	学科転換後	国際ビジネス科（1学級）	流通マネジメント科（1学級）	流通経済科（1学級）	会計マネジメント科（1学級）	会計科（1学級）	情報マネジメント科（1学級）	情報処理科（1学級）	
学科転換前	学科転換後												
国際ビジネス科（1学級）	流通マネジメント科（1学級）												
流通経済科（1学級）	会計マネジメント科（1学級）												
会計科（1学級）	情報マネジメント科（1学級）												
情報処理科（1学級）													
学科転換 普通科新学科の設置	釧路湖陵 大樹	○国の普通科改革を踏まえ、現代的な諸課題に対応するために、複合的な学問分野等に即した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科に転換 ○最新の学術的知見に基づき、地域社会や国家、国際社会の枠組みを超えるボーダレスな課題についての探究的な学びを推進 ○国の普通科改革を踏まえ、現代的な諸課題に対応するために、現在・将来的地元社会が有する課題や魅力に着目した実践的な学びに重点的に取り組む学科に転換 ○高校が地域における人材育成の中心機関として、地域社会に根ざした探究的な学びを推進											

### 3 令和7年度（2025年度）の高校配置計画について

課程	区分	学校名	主な計画の内容
全日制	学級減 ▲2	深川東▲1 室蘭工業▲1	○通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを勘案し、学級減
	再編統合 学級増 +1	【募集停止】 岩見沢東▲5 岩見沢西▲3 【新設校】+6 (学科検討中)	○岩見沢市内において、今後の中卒者数の状況や学校・学科の配置状況、地域の要望などを勘案し、一定の学校規模を維持し、幅広い教育課程の編成・実施を図る観点から、再編により新設校を設置（令和6年度（2024年度）の1学級減を変更） ○校舎については、岩見沢西高校校舎とし、設置する学科は引き続き検討
全日制	再編統合 単位制の導入	* 岩見沢緑陵 +1 【募集停止】 富良野▲4 富良野緑峰▲3 【新設校】+5 (学科検討中)	○学区における学校・学科の配置状況、生徒の進路動向などを総合的に勘案し、岩見沢市内の再編に併せて、学級増 ○富良野市内において、今後の中卒者数の状況や学校・学科の配置状況、地域の要望などを勘案し、一定の学校規模を維持し、幅広い教育課程の編成・実施を図る観点から、再編により新設校を設置 ○校舎については、富良野緑峰高校校舎とし、設置する学科は引き続き検討 ○生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、単位制を導入
	募集停止	穂別▲1	○再編整備を保留していたが、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続10人未満となつたため、募集停止
	単位制の導入	留萌	○生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、留萌高校の職業学科（情報ビジネス科、電気・建築科）に単位制を導入
	フィールド制の転換	札幌あすかぜ 札幌平岡	○生徒の特性や進路希望等を踏まえ、教育課程の工夫・改善を図るために、普通科フィールド制を普通科に転換

（学校名の＊は、市町村立高校）

### 4 地域連携特例校等の再編整備の留保について

学校名	主な計画の内容
【地域連携特例校】 夕張万部豊 【農業に関する学科を置く高校】 俱知安農業	○所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的な取組とその効果を勘案し、再編整備を留保

# 道学事課からのお知らせ

## 私立学校施設の耐震化について

学校施設は、児童生徒が一日のうち多くの時間を過ごす場であるとともに、災害時には、地域住民の避難所としての役割も果たすことから、その安全性を確保することは全ての学校施設が備えるべき基本的な条件です。

その一方で、少子化による生徒数の減少など、学校法人の経営が厳しい状況の中、学校施設の耐震化に当たっては、多大な経費負担が課題となっています。

こうしたことから、道では、国に対し、助成制度の拡充や継続的な財源の確保などを要望しているほか、平成26年度（2014年度）から耐震診断経費に対する助成を、平成30年度（2018年度）からは耐震補強工事に対する助成を行っています。

学校設置者におかれましては、こうした国や道の助成制度をご活用の上、耐震診断を早急に実施するとともに、建物毎の耐震化工事の時期を具体的に記載した年次計画を作成するなど、着実に耐震化を進めてくださいますようお願いします。

### 1 私立学校施設の耐震改修状況等実態調査について

本道の私立学校の耐震化率は、全国平均を下回っている状態にあり、できるだけはやく校舎等の耐震化を実施する必要があります。

○ 私立高等学校等の耐震改修状況等（令和4年4月1日現在）

	診断実施率	耐震化率	順位
北海道	84.5%	77.1%	46位
全国平均	89.6%	93.3%	

### 2 耐震化補助制度について（国、道）

補助事業名	私立学校施設耐震診断事業費補助金【道】	私立学校施設整備費補助金【国】		私立学校施設耐震化支援事業費補助金【道】
対象工事等	耐震診断	耐震改築	耐震補強	耐震補強
対象事業	S56.5.31以前に着工された学校施設	Is値0.3未満等	Is値0.7未満	左記国庫補助の交付決定を受けた事業
補助率等	2／3以内	1／3以内	【Is値0.3未満】 1／2以内 【上記以外】 1／3以内	1／6以内
補助上限額	150万円/棟	なし	なし	※補助対象経費の上限額：2億円/棟
R4予算額	750万円	-	-	333万4千円

# 道学事課からのお知らせ

## 北海道の価格高騰対策について

令和4年度(2022年度)は、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、原油価格・物価高騰対策に取り組んでまいりました。

### 1 スクールバス燃料費高騰対策事業

スクールバスの燃料費高騰対策として、通学環境が維持されるよう保護者の負担軽減に向けた燃料費高騰分の経費を支援（管理運営費補助金のメニューを追加し加算）

### 2 給食原材料費等支援事業

私立学校において、栄養バランスや量を保った給食の実施が継続できるよう、保護者の負担軽減に向けた給食原材料費等の経費を支援

### 3 物価高騰対策支援事業（電気料金）

電気料金高騰の影響を受けている私立学校等に対する支援

## いじめ防止に向けた取組の徹底について

いじめは、どの学校、どのクラスにも、どの子どもにも起こりうるという認識の下、組織的に対応することが重要です。

「いじめ防止対策推進法（以下、法という。）」を踏まえ、次の点に留意し、いじめ防止対策を徹底していく必要があります。

### 1 いじめの定義の理解

児童生徒が心身の苦痛を感じている場合は、「いじめ」に該当するという法の定義に基づき、学校としていじめを認知する。

### 2 組織での対応

教職員がささいな兆候や懸念、児童生徒の訴えを抱え込まずに、法により全ての学校に設置されている「学校におけるいじめの防止のための組織」に報告や相談を行う。

また、積極的にいじめを認知し、初期段階での解決に向けて、迅速かつ組織的にいじめの状況を確認し、適切な役割分担により対応を行う。

### 3 未然防止

児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、信頼関係づくりに努めるとともに、児童生徒の不安や悩みに対して、スクールカウンセラー等を含む全ての教職員がいつでも相談できる体制を整備する。

### 4 保護者・地域・関係機関の協力を得る

日頃から、保護者等にいじめの定義や学校いじめ防止基本方針を分かりやすく伝える。

また、いじめが認知された場合は、被害・加害児童生徒の保護者に対して「学校いじめ対策組織」による解決に向けた対応方針を伝え、信頼関係の下に理解と協力を得られるよう努める。

# 私学関係団体

## 基金協会

### 1. 貸付事業

令和4年度貸付事業については、次のとおりになりました。

資金名	予算額	貸付額		条件			(千円)
		校数	金額	期間	利率	限度額	
施設整備資金	500,000	3	118,000	10年(2)	0.50%	一般資金 120,000 特別資金 50,000	
環境整備資金	400,000	1	40,000	15年(1)	0.30%	120,000	
経営安定資金	900,000	8	350,000	7年(2)	無利子	60,000	
短期経営安定資金	500,000	5	55,000	6ヶ月以内	無利子	15,000	
私立幼稚園等 短期経営安定資金	100,000	2	6,000	年度内	無利子	3,000	
合計	2,400,000	19	569,000	—	—	—	

### 3. 助成事業

令和4年度助成事業については、次のとおりになりました。

資金名	予算額	助成額		条件		(千円)
		校数	金額	期間	利子補給率・限度額	
経営資金利子 補給金	3,000	6	1,559	斡旋期間	1.0%	
耐震診断助成金	10,000	3	6,000	—	1校当たり 2,000 (経費の1/2以内)	
防災・省資源等 助成金	30,000	17	26,700	—	1校当たり 2,000 (経費の1/2以内)	
合計	43,000	26	34,259	—	—	

### 2. 融資斡旋事業

令和4年度融資斡旋事業については、次のとおりになりました。

資金名	予算額	斡旋額		条件		(千円)
		校数	金額	期間	利 率	
長期経営資金	1,200,000	1	18,000	5年以内 11年以内 (うち据置1年)	短期プライムレート+0.5% 短期プライムレート+0.7%	
短期経営資金	900,000	5	180,000	1年以内	短期プライムレート	
合計	2,100,000	6	198,000	—	—	

### 4. 私学経営等研修会

令和4年度私学経営等研修会については、次のとおり5回実施しました。  
なお、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し資料送付となりました。

区分	対象	開催日	参加者
1. 私学経営研修会	全法人		
2. 私学経営実務研修会			
(1) これからの私学経営課題	全法人	資料送付	
(2) 給与等関係	全法人		
(3) 経営・財務等関係	全法人		
(4) 幼稚園関係	幼稚園等		
合計	—	—	

## 退職金社団

### 退職金資金給付の状況について

今年度の退職金資金の給付額は、令和4年12月末現在で1,116,437,923円(退職者103人)です。

過去5年間の給付額を見ると、平成29年度144人1,439,161,494円、平成30年度130人1,246,876,548円、令和元年度108人829,510,095円、令和2年度131人1,006,075,149円、令和3年度120人1,113,961,598円となっております。当社団の退職金資金給付は、平成15年度に最高値の約29億円を給付ましたが、その後は減少傾向にあり、平成19年度からは、8億円から15億円強の間で推移しております。このような状況から、退職資金事業の積立金は、今年度末においても順調に積み上がる見込みとなっています。

### 7大都道府県 令和3年度退職資金交付状況

区分	登録教職員数 (人)	退職者数 (人)	退職率 (%)	退職資金 支 付 者 数 (人)	退職資金交付総額 (円)	退職者一人当り 平均交付額 (円)
北海道	1,809	120	6.6	120	1,113,961,598	9,283,013
神奈川	5,311	357	6.7	348	3,352,101,609	9,632,476
東京	29,542	2,989	10.1	2,746	12,111,068,962	4,410,440
愛知	3,830	218	5.7	218	2,301,027,111	10,555,170
京都	4,415	446	10.1	421	1,568,157,026	3,724,839
大阪	12,717	1,479	11.6	1,352	4,013,631,096	2,968,662
福岡	3,649	310	8.5	284	1,758,615,113	6,192,307

※ 東京、京都、大阪は幼稚園加入団体

# からのお知らせ

## 奨 学 会

### 1. 令和4年度奨学生について

令和4年6月に定期募集を行うなど各学校のご協力を得て、新規に採用となった奨学生は、第1学年で524人、第2学年で57人、第3学年で25人、合計606人で、継続者と合わせた高等学校等に在学中の奨学生数は、1,584人となりました。なお、家計が急変し修学困難となった生徒に対しては、定期募集以外にも年間を通じて(緊急)採用をしています。(令和3年度採用者は10人)

#### 令和4年度 奨学生の状況 (令和4年8月現在)

学 年	私 立	国・公 立	合 計	(参考)貸付月額	
第1学年	385人	139人	524人	右の額から 希望額を選 択。但し 国・公立は 25千円を 限度。	10,000円
第2学年	373人	140人	513人		15,000円
第3学年	401人	146人	547人		20,000円
合計	1,159人	425人	1,584人		25,000円
					30,000円
					35,000円

### 2. 令和4年度入学資金貸付について

令和4年4月に道内私立高等学校(全日制)を対象に行った定期募集などにより計50人を採用しました。なお貸付額は20万円又は入学した高校の入学一時金のいずれか低い額となっています。

### 3. 奨学金及び入学資金貸付金の返還について

返還は、貸付終了後1年間据え置いて開始となります。返還状況の悪い方に対しては電話督促や訴訟等、種々の滞納対策を行っております。各学校におかれましても、奨学金及び入学資金貸付金の申込に当たっては返済について本人や父母と相談するとともに、卒業時には約束どおり遅れることなく返済することを指導する等、格別のご協力をお願いいたします。

## 私 学 事 業 団

### 令和3年度 特定健康診査等の実施結果及び学校訪問型保健指導のご案内

学校法人等からの特定健康診査結果データの提出協力による、加入者の特定健康診査の実施率は、前年度から2.2ポイント増の82.2%、また、受診券を送付している被扶養者等の実施率は前年度から4.9ポイント増の35.0%となったものの、加入者・被扶養者等ともに目標に対しては下回る結果となりました(表1)。

特定保健指導の加入者の実施率は、前年度から0.2ポイント減の7.6%、被扶養者等の実施率は前年度から0.3ポイント増の5.1%となったものの、加入者、被扶養者等ともに目標に対して下回る結果となりました(表2)。

特定保健指導はさまざまな受診スタイルがありますが、加入者の方向けに学校訪問型特定保健指導も実施しております。私学事業団が契約しているSOMPOヘルスサポート(株)の専門スタッフが学校法人等へ伺い、空き教室等をお借りして特定保健指導を実施します。指導対象となった加入者の移動時間や受診機関の予約の手間を省き、時間を有効活用できますので、加入者の健康管理にぜひお役立てください。

表1 特定健康診査の実施率

(単位:人)

区 分	a加入者	b被扶養者等	合計(a+b)
A 対象者数	326,659	102,142	428,801
B 実施者数	268,438	35,729	304,167
実施率(B/A)	82.2%	35.0%	70.9%
実施率目標	89.0%	50.0%	79.0%
目標差	△6.8%	△15.0%	△8.1%

表2 特定保健指導の実施率

(単位:人)

区 分	a加入者	b被扶養者等	合計(a+b)
A対象者数	47,267	2,885	50,152
B実施者数	3,598	147	3,745
実施率(B/A)	7.6%	5.1%	7.5%
実施率目標	22.0%	22.0%	22.0%
目標差	△14.4%	△16.9%	△14.5%

### 学校訪問型保健指導の実施に関するお問い合わせ先

SOMPOヘルスサポート(株) TEL 03(5209)8553 (平日10:00~12:00、14:00~17:00) 担当:平尾・松村

# 令和4年度・令和5年度の動き

## 【令和4年度】

4月 11日	定期監査	1月 4日	私学団体連合会新年互例会
4月 13日	第1回教育振興部会、第2回公私協	1月 11日	私学振興に関する懇話会全道大会
4月 14日	第1回理事会、支部長会	1月 12日	地域別公私立高等学校協議会 (胆振東・西)
5月 10日	定例総会、懇親会	1月 17日	地域別公私立高等学校協議会(宗谷)
5月 13日	北海道私立中学高等学校保護者会連合会 役員会	1月 18日	地域別公私立高等学校協議会(上川南)
6月 2~ 3日	私学経営研修会	1月 20日	地域別公私立高等学校協議会 (オホーツク中)
6月 4日	北海道私立中学高等学校保護者会連合会 理事会、定期総会、講演会	1月 23日	地域別公私立高等学校協議会(渡島)
6月 21日	第1回私学展担当者会議(オンライン)	1月 27日	地域別公私立高等学校協議会(石狩)
6月 24日	第1回研修部会	1月 30日	地域別公私立高等学校協議会(釧路)
6月 29日	初任者研修運営会議	1月 31日	地域別公私立高等学校協議会(十勝)
6月 30日	北海道議会教育振興議連との私学振興懇 話会(第1回)	2月 10日	道立高等学校推薦入試
7月 12日	第2回教育振興部会、第3回公私協	2月 14~ 15日	私立高等学校一般入試(A日程)
7月 22日	令和5年度私立高等学校等政府予算に關 する中央要請	2月 17~ 18日	私立高等学校一般入試(B日程)
7月 28~ 29日	私立学校初任者研修北海道地区研修会	2月 22日	第4回教育振興部会
8月 22日	第1回経営管理部会	2月 24日	第4回研修部会
8月 23日	北海道総務部長との私学振興懇話会	3月 2日	道立高等学校一般入試
8月 25日	第2回理事会	3月 9日	第2回経営管理部会
9月 4日	北海道私立学校展	3月 17日	道立高等学校一般入試合格発表
9月 22日	第2回研修部会	3月 23日	第3回理事会
9月 30日	道議会教育振興議連等への緊急要請		
10月 7日	私立学校初任者研修地区運営委員全国会 議(ハイブリッド会議)		
10月 14日	私学団体連合会代表者・局長会議	4月 11日	定期監査
10月 14日	自民党道連団体政策懇談会	4月 13日	第1回理事会、支部長会
10月 20~ 21日	全国私学教育研究集会岐阜大会	4月 14日	第1回教育振興部会、第2回公私協
10月 26日	第2回私学展担当者会議(オンライン)	5月 9日	常任理事会、定例総会、懇親会
10月 28日	北海道教育長との私学振興懇話会	6月 1~ 2日	令和4年度私学経営研修会
10月 29日	北海道私立中学高等学校保護者会連合会 第2回理事会	6月 3日	北海道私立中学高等学校保護者会連合会 理事会、総会、講演会、懇親会
11月 7日	北海道社会貢献賞表彰式	8月 9~ 10日	私立学校初任者研修北海道地区研修会
11月 9日	私学振興全国大会	9月 3日	北海道私立学校展
11月 18日	日私学保連青少年育成研修会(名古屋)	10月 5~ 6日	理事長・理事・校長研修会(小樽)
12月 14日	第3回研修部会	11月 1日	私学振興全国大会
12月 14日	北海道議会教育振興議連との私学振興懇 話会(第2回)	11月 9~ 10日	全国私学教育研究集会香川大会
12月 16日	第3回教育振興部会、第1回公私協	11月 17日	日私学保連青少年育成研修会(岩手)
12月 21日	地域別公私立高等学校協議会(後志)	1月 10日	私学振興に関する懇話会全道大会

## 【令和5年度 予定】

4月 11日	定期監査
4月 13日	第1回理事会、支部長会
4月 14日	第1回教育振興部会、第2回公私協
5月 9日	常任理事会、定例総会、懇親会
6月 1~ 2日	令和4年度私学経営研修会
6月 3日	北海道私立中学高等学校保護者会連合会 理事会、総会、講演会、懇親会
8月 9~ 10日	私立学校初任者研修北海道地区研修会
9月 3日	北海道私立学校展
10月 5~ 6日	理事長・理事・校長研修会(小樽)
11月 1日	私学振興全国大会
11月 9~ 10日	全国私学教育研究集会香川大会
11月 17日	日私学保連青少年育成研修会(岩手)
1月 10日	私学振興に関する懇話会全道大会

# 北海道私立中学高等学校協会役職員名簿(令和4年度)

会長	西岡 憲廣	西岡学園理事長 札幌山の手高等学校校長
副会長(研修部会・担当)	浅里 慎也	北星学園女子中学・高等学校校長
"(経営管理部会・担当)	明上山勝己	札幌北斗学園理事長
"(教育振興部会・担当)	山崎 省一	北海学園専務理事
常任理事	浅里 慎也	北星学園女子中学・高等学校校長
"	明上山勝己	札幌北斗学園理事長
"	山崎 省一	北海学園専務理事
理事	堀水 享	北海道立正学園理事長
"	土家 康宏	清尚学院理事長
"	谷山 弘行	酪農学園理事長
" 札幌支部長	宮路 真人	札幌静修高等学校校長
" 函館支部長	山田 伸二	函館大学付属有斗高等学校校長
" 小樽支部長	佐々木淳一	小樽双葉高等学校校長
" 旭川支部長	山本 周男	旭川藤星高等学校校長
" 胆振支部長	山口 祐正	苫小牧中央高等学校校長
" 道東支部長	嶋野 幸也	白樺学園高等学校校長
監事	永田 淑子	藤学園理事長
"	川口 淳	札幌龍谷学園高等学校校長
経営管理部会 部会長	明上山勝己	札幌北斗学園理事長
委員	堀水 享	北海道立正学園理事長
"	星川 定行	創成学園理事長
"	土家 康宏	清尚学院理事長
"	池田 延己	函館大妻学園理事長 函館大妻高等学校校長
"	谷山 弘行	酪農学園理事長
"	浅利 剛之	札幌日本大学学園理事長 札幌日本大学高等学校・中学校校長
教育振興部会 部会長	山崎 省一	北海学園専務理事
委員	宮路 真人	札幌静修高等学校校長
"	山田 伸二	函館大学付属有斗高等学校校長
"	佐々木淳一	小樽双葉高等学校校長
"	山本 周男	旭川藤星高等学校校長
"	山口 祐正	苫小牧中央高等学校校長
"	嶋野 幸也	白樺学園高等学校校長
研修部会 部会長	浅里 慎也	北星学園女子中学高等学校校長
委員	今城 慰作	北星学園大学附属高等学校校長
"	秋山 秀司	北海高等学校校長
"	西田 丈夫	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校校長
"	橋本 達也	北海道科学大学高等学校校長
"	駒井健一郎	札幌光星中学校・高等学校校長
"	石川 直美	藤女子中学校・高等学校校長
事務局長	澁谷 恵補	
事務局次長	西田陽一郎	
事務局員	佐藤 直美	
"	稻葉 裕子	

## お知らせ

令和5年度定例総会は 5月9日(火) に開催する予定です。

## 発行 北海道私立中学高等学校協会

〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目札幌ガーデンパレス5階  
TEL 011-241-6651 FAX 011-242-2858  
URL <https://www.doshigaku.jp/>  
MAIL [jimukyoku01@doshigaku.jp](mailto:jimukyoku01@doshigaku.jp)  
令和5年3月第29号発行（平成7年創刊）